

## 2 災 害 対 策

- 
- ( 1 ) 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度
    - ( 1 - 1 ) 避難場所等を確認する方法
  - ( 2 ) 備蓄や防災用具などの用意
    - ( 2 - 1 ) 備蓄や防災用具などの用意の開始時期
    - ( 2 - 2 ) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容
    - ( 2 - 3 ) 家庭での備蓄の量
  - ( 3 ) 町会や自治会の防災訓練への参加状況
    - ( 3 - 1 ) 防災訓練へ参加しない理由
  - ( 4 ) 災害弱者・災害時要援護者の有無
    - ( 4 - 1 ) 災害弱者・災害時要援護者への声掛けの有無
  - ( 5 ) 大地震が起きたとき不安に思うこと
  - ( 6 ) 大地震の際の防災対策として区に特に力を入れてほしいこと
-



## 2 災害対策

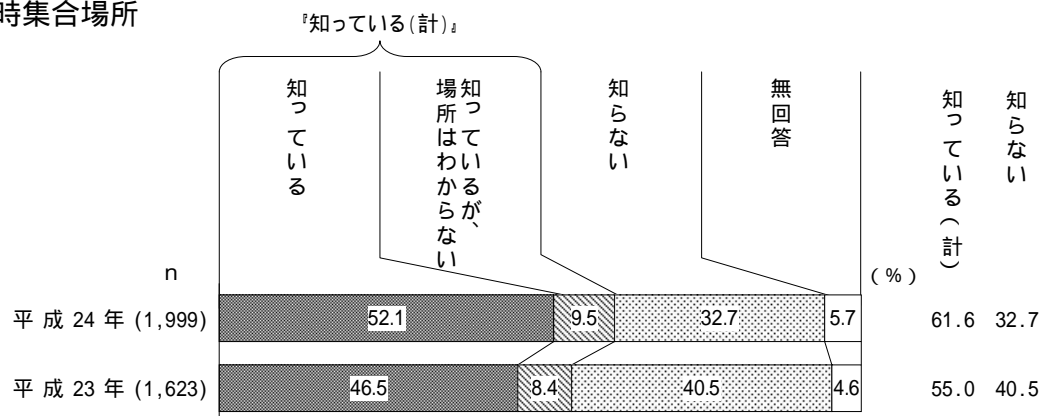
### (1) 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度

『知っている』は、【小中学校等の避難所】と【一時集合場所】が6割を超え、【広域避難場所】が5割半ば

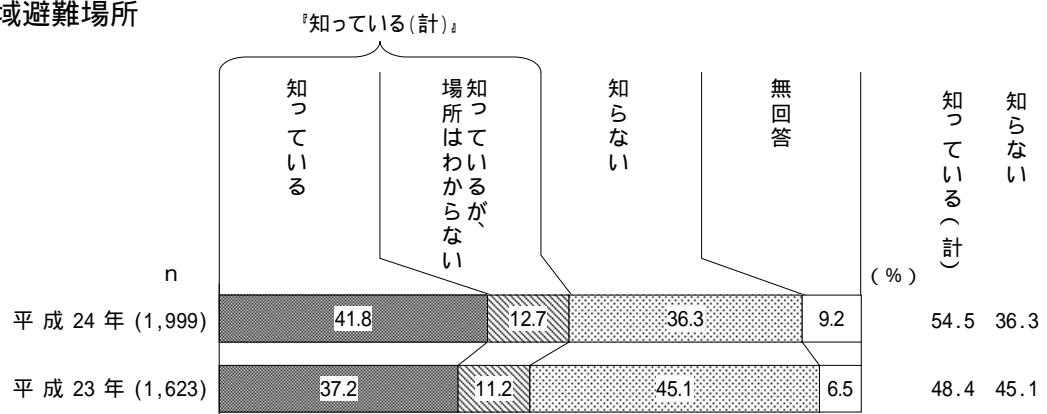
問4 あなたは、一時集合場所（町会・自治会などが指定した避難場所）、広域避難場所（都が指定した避難場所）、小中学校等の避難所（区が指定した避難所）を知っていますか。（は各項目とも1つだけ）

図2 - 1 - 1 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度 - 過年度比較

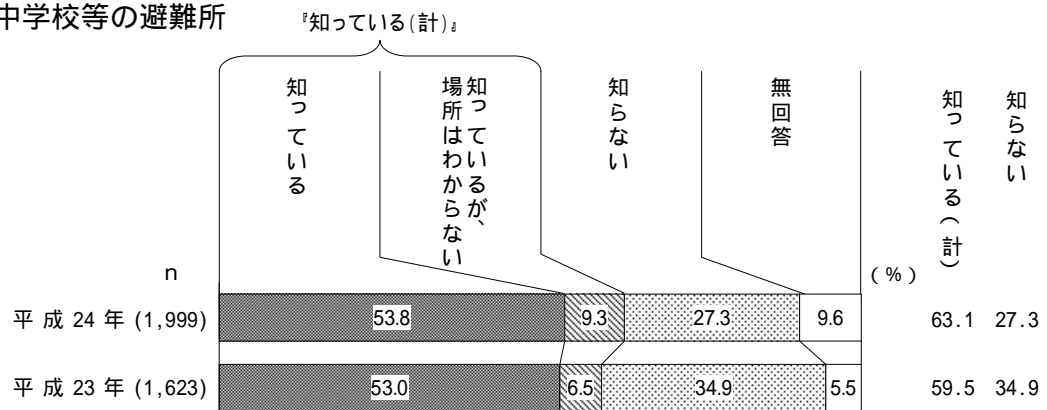
#### (1) 一時集合場所



#### (2) 広域避難場所



#### (3) 小中学校等の避難所



一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所を知っているか聞いたところ、「知っている」は【小中学校等の避難所】(53.8%)と【一時集合場所】(52.1%)が5割を超え、【広域避難場所】(41.8%)が4割を超えている。

これに「知っているが、場所はわからない」を合わせた『知っている(計)』では、【小中学校等の避難所】(63.1%)と【一時集合場所】(61.6%)が6割を超え、【広域避難場所】(54.5%)が5割半ばとなっている。

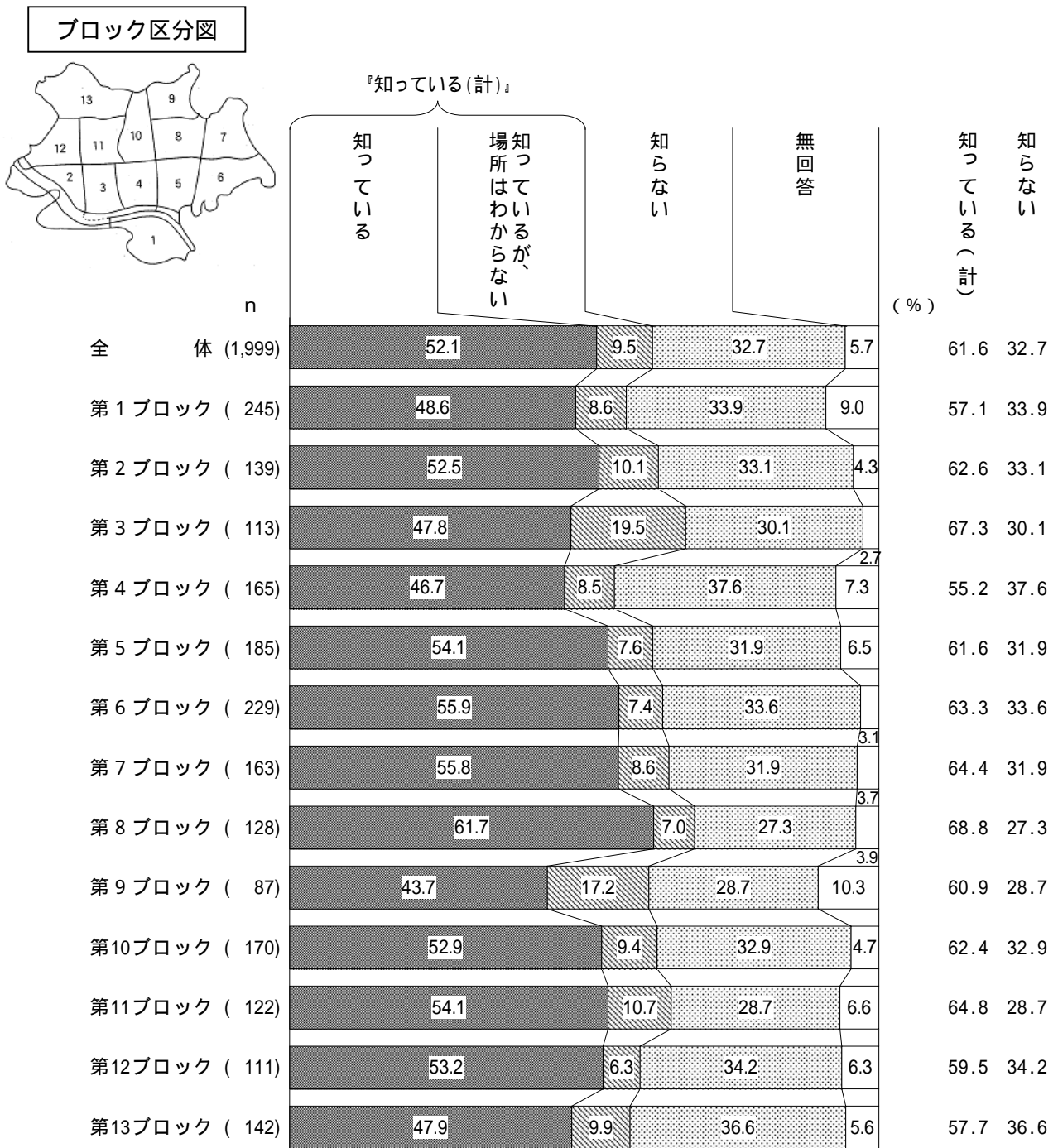
平成23年調査と比較すると、『知っている(計)』は【一時集合場所】は6.6ポイント、【広域避難場所】は6.1ポイント、【小中学校等の避難所】は3.6ポイント、それぞれ高くなっている。

(図2-1-1)

地域ブロック別でみると、『知っている(計)』は第8ブロック(68.8%)と第3ブロック(67.3%)で7割近くと高くなっている。一方、「知らない」は第4ブロック(37.6%)と第13ブロック(36.6%)で4割近くと高くなっている。(図2-1-2)

図2-1-2 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度 - 地域ブロック別(1)

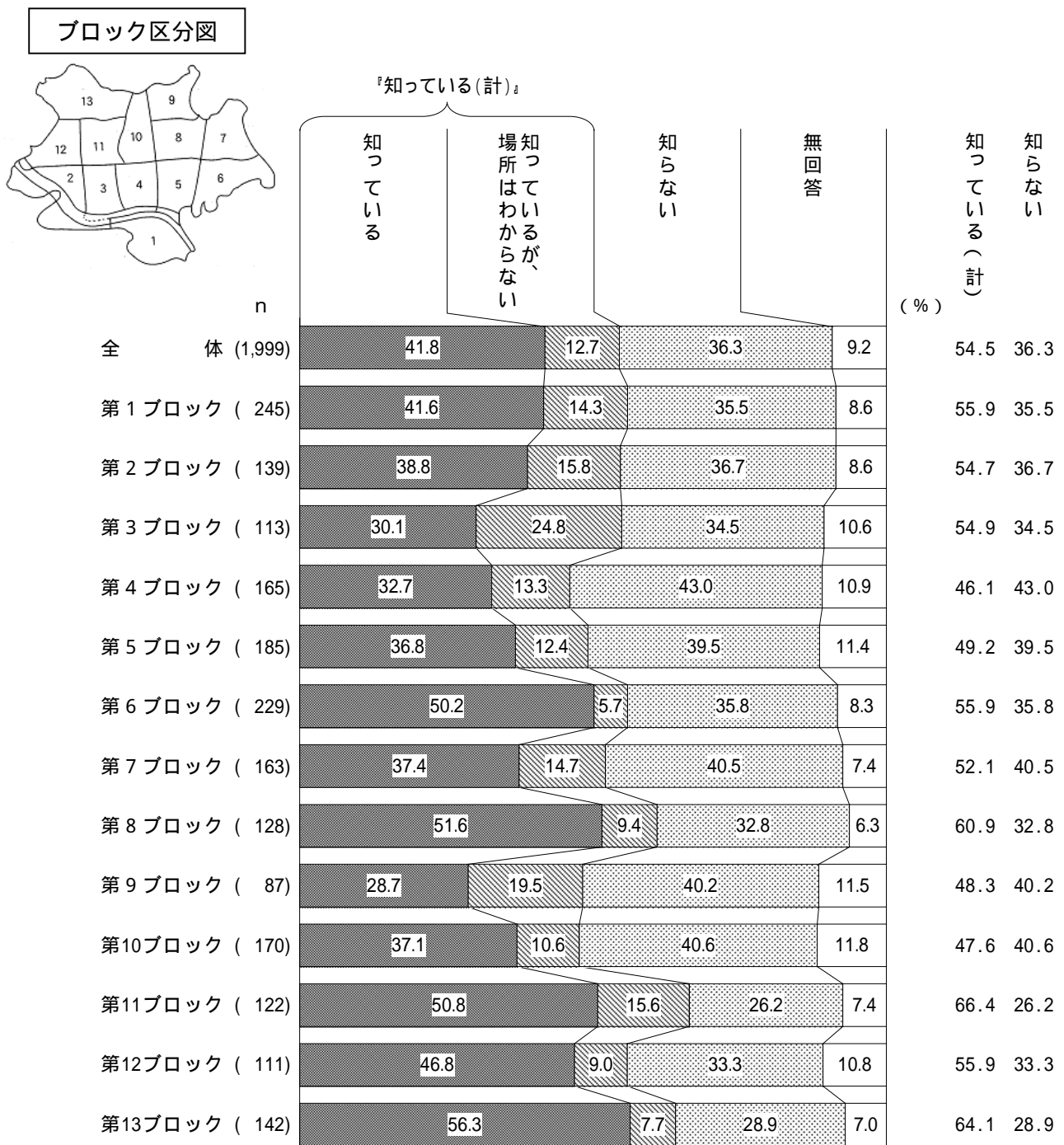
(1) 一時集合場所



地域ブロック別でみると、『知っている(計)』は第11ブロック(66.4%)と第13ブロック(64.1%)で6割半ばと高くなっている。一方、「知らない」は第4ブロック(43.0%)で最も高くなっている。(図2-1-3)

図2-1-3 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度 - 地域ブロック別(2)

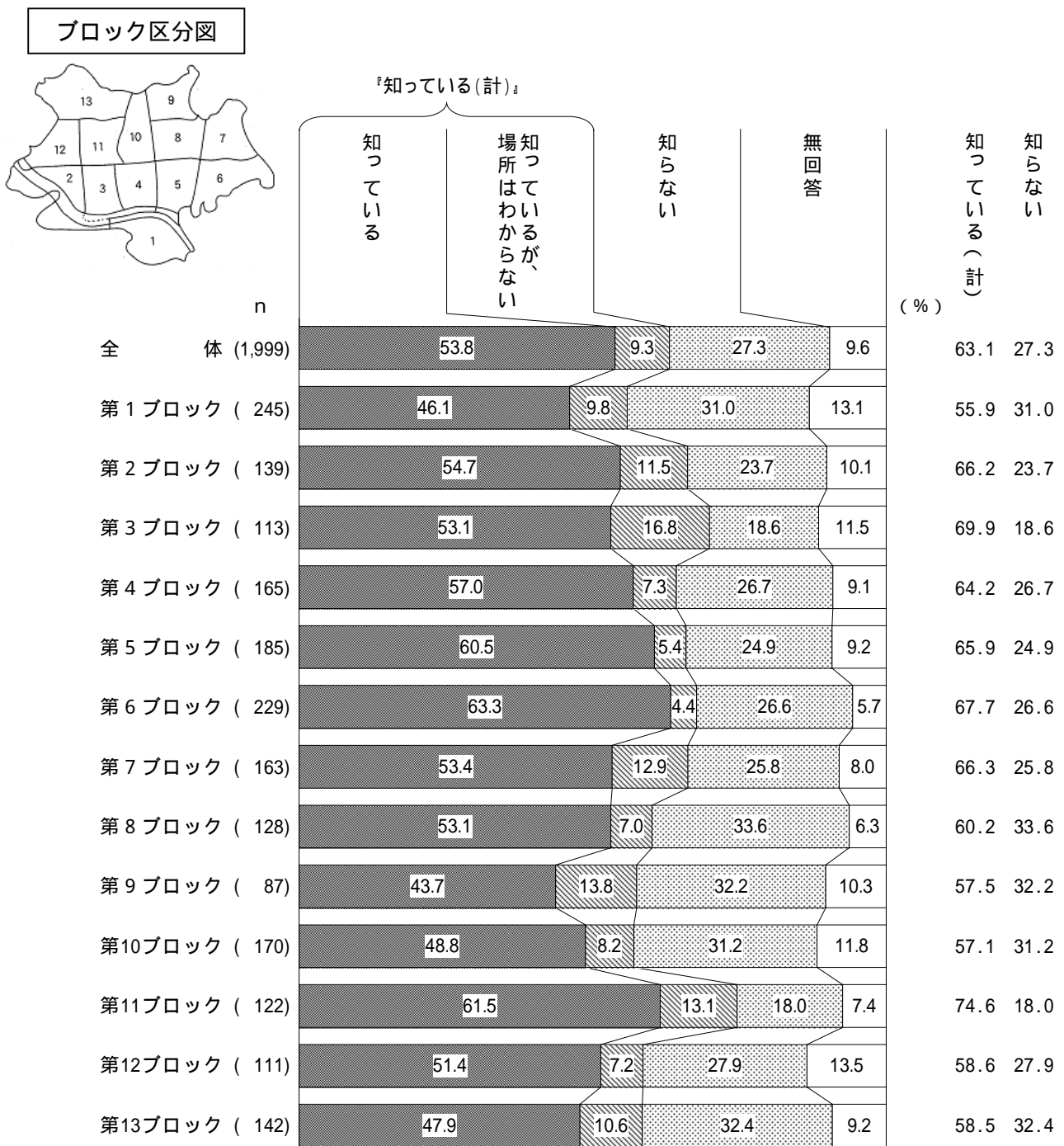
(2) 広域避難場所



地域ブロック別で見ると、『知っている(計)』は第11ブロック(74.6%)で7割半ばと高くなっている。一方、「知らない」は第8ブロック(33.6%)、第13ブロック(32.4%)、第9ブロック(32.2%)、第10ブロック(31.2%)の順で高くなっている。(図2-1-4)

図2-1-4 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度 - 地域ブロック別(3)

(3) 小中学校等の避難所

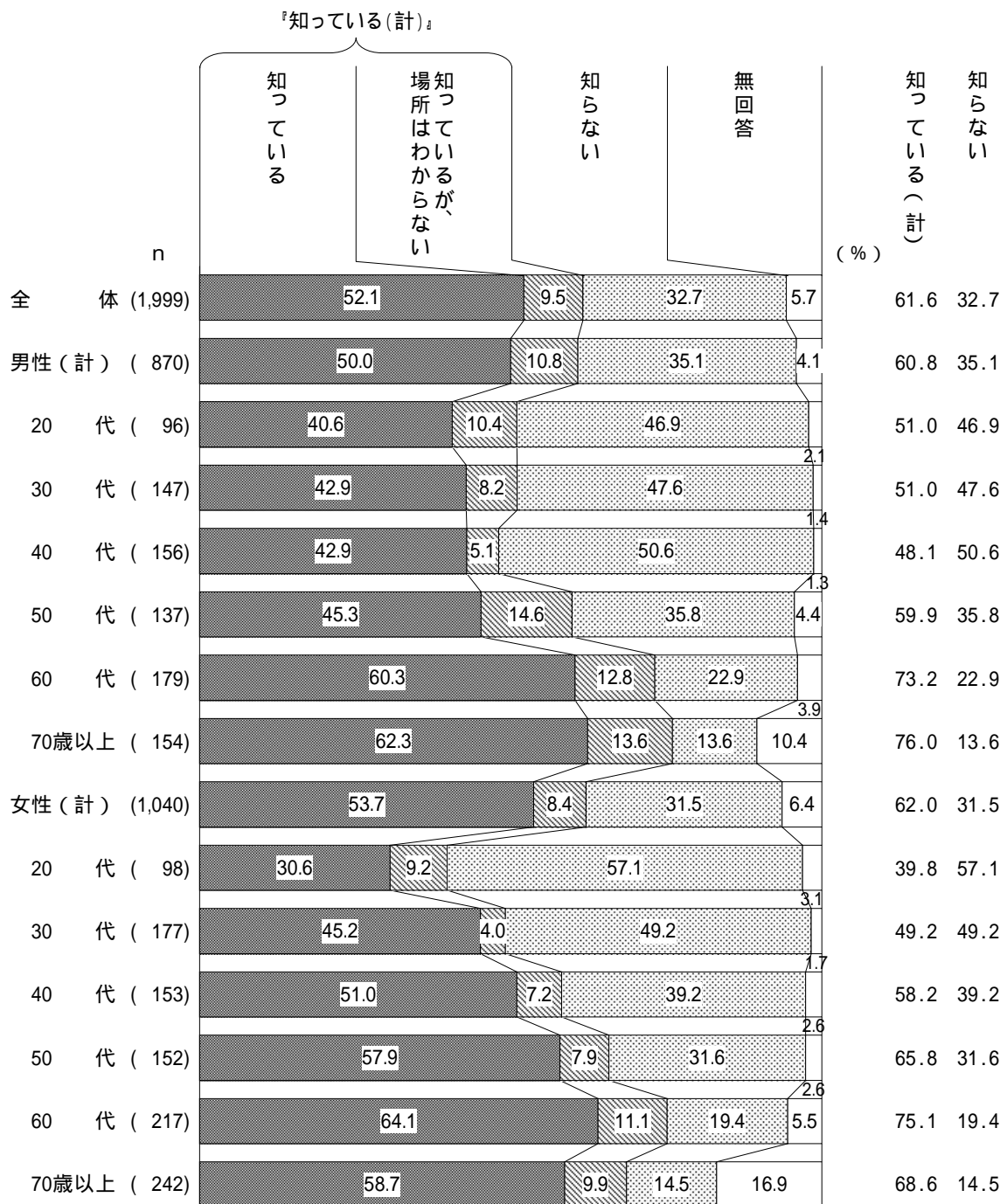


性別で見ると、男性で「知らない」(35.1%)が女性(31.5%)より3.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「知っている」は男女ともおおむね高い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、女性60代(64.1%)で6割半ば、男性70歳以上(62.3%)、60代(60.3%)で6割を超え高くなっている。また、『知っている(計)』でも男女ともおおむね高い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、男性70歳以上(76.0%)と女性60代(75.1%)で7割半ばと高くなっている。一方、「知らない」は女性20代(57.1%)で6割近くと高くなっている。(図2-1-5)

図2-1-5 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度 - 性別、性・年代別(1)

(1) 一時集合場所



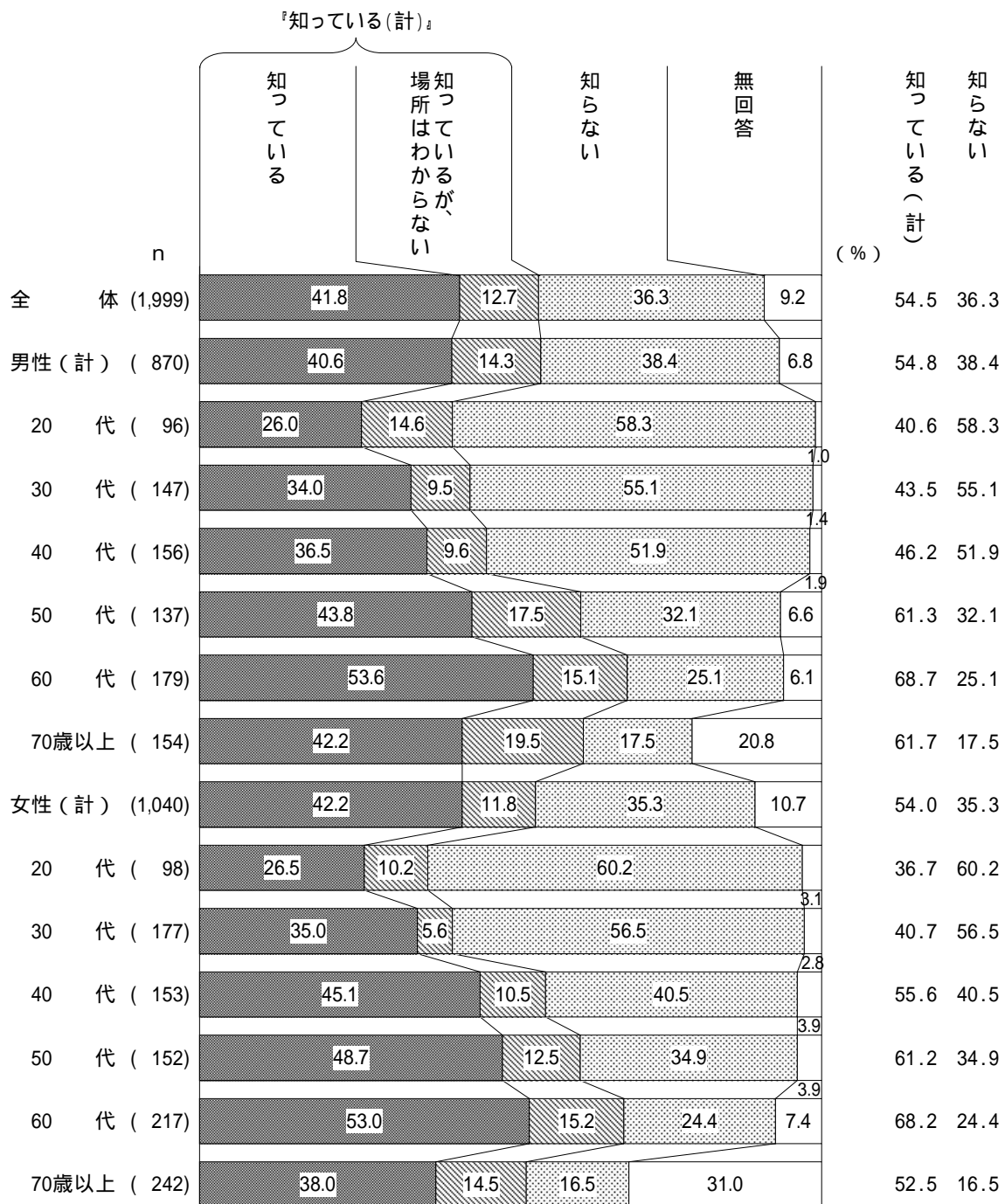


性別で見ると、男性で「知らない」(38.4%)が女性(35.3%)より3.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「知っている」は男女とも60代(男性53.6%・女性53.0%)で5割を超え高くなっている。また、『知っている(計)』でも男女とも60代(男性68.7%・女性68.2%)が7割近くと高くなっている。一方、「知らない」は男女とも低い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、女性20代(60.2%)で6割、男性20代(58.3%)と女性30代(56.5%)の順で高くなっている。(図2-1-6)

図2-1-6 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度 - 性別、性・年代別(2)

(2) 広域避難場所

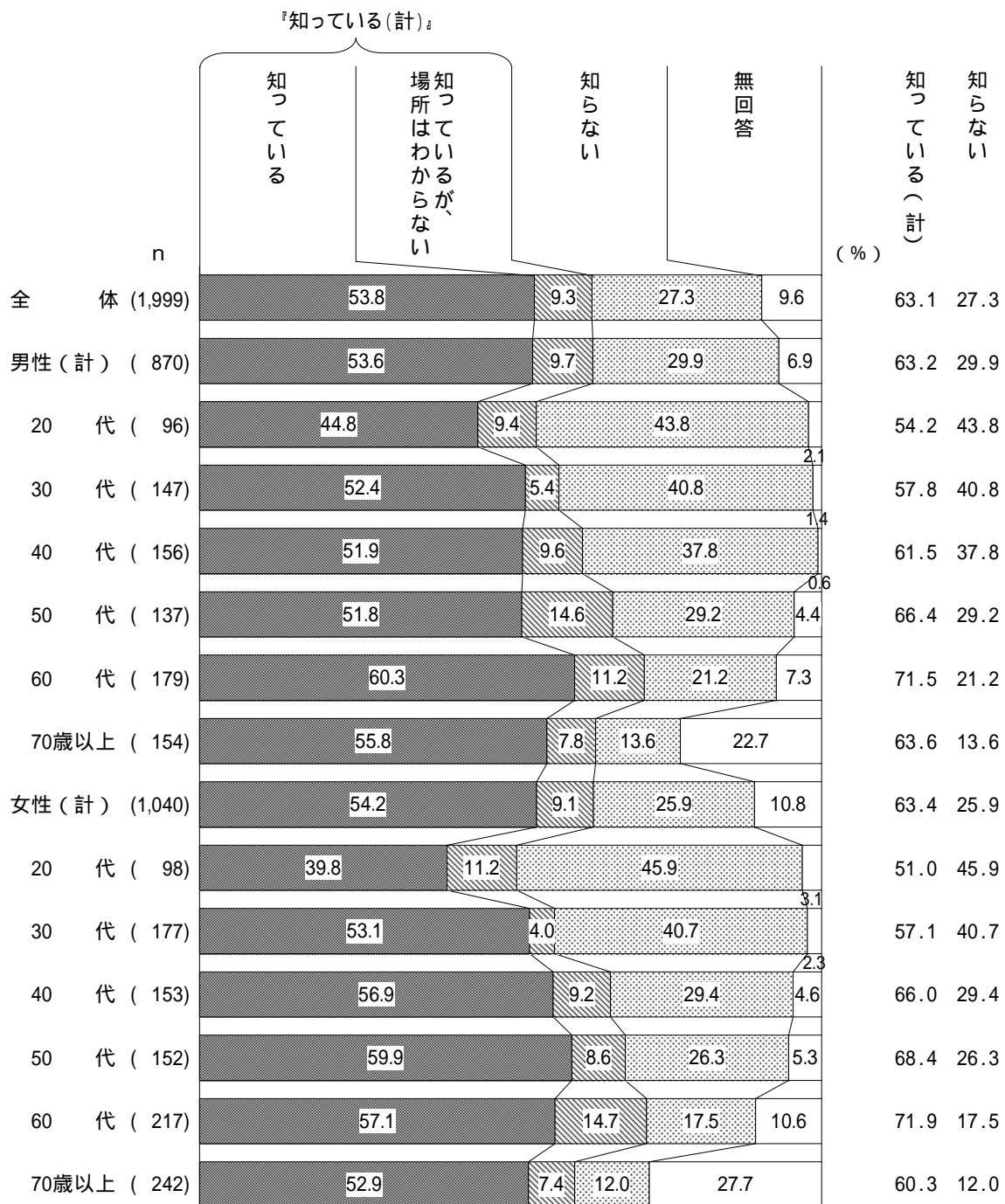


性別で見ると、男性で「知らない」(29.9%)が女性(25.9%)より4.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「知っている」は男性60代(60.3%)と女性50代(59.9%)で6割と高くなっている。また、『知っている(計)』では女性60代(71.9%)と男性60代(71.5%)で7割を超え高くなっている。一方、「知らない」は男女とも低い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、女性20代(45.9%)、男性20代(43.8%)の順で高くなっている。(図2-1-7)

図2-1-7 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度 - 性別、性・年代別(3)

(3) 小中学校等の避難所



( 1 - 1 ) 避難場所等を確認する方法

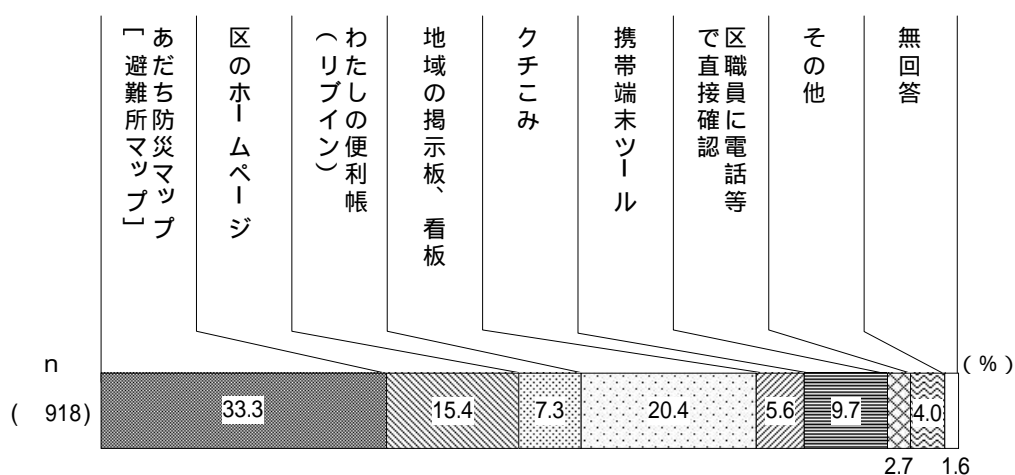
「あだち防災マップ[避難所マップ]」が3割を超える

(問4の「一時集合場所」「広域避難場所」「小中学校等の避難所」のうち、いずれか1つでも「知らない」とお答えの方に)

問4 - 1 避難場所等を確認するために便利な方法は何ですか。

( は最もあてはまるもの1つ )

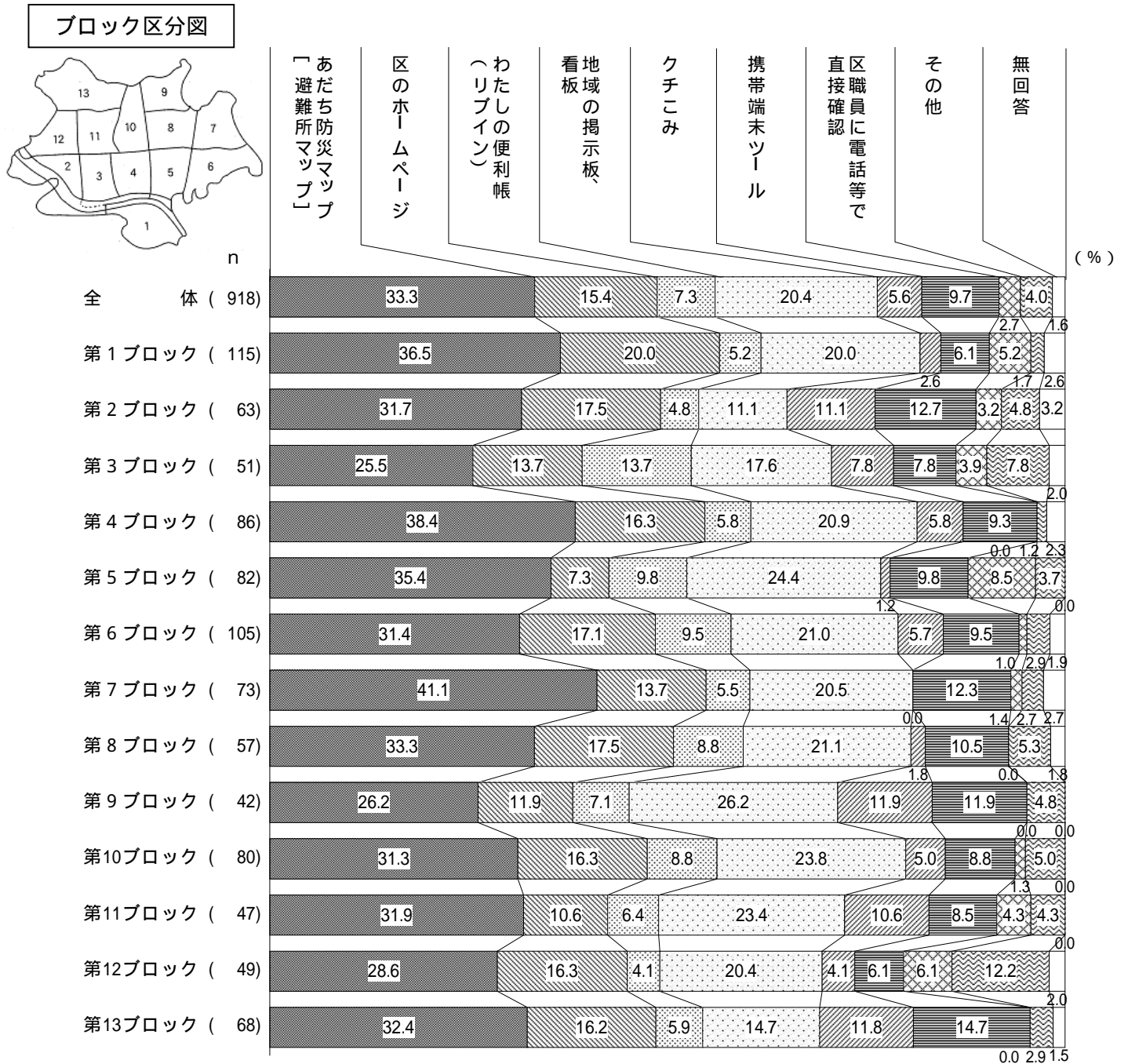
図2 - 2 - 1 避難場所等を確認する方法



避難場所等を確認するために便利な方法を聞いたところ、「あだち防災マップ[避難所マップ]」(33.3%)が3割を超え最も高く、次いで「地域の掲示板、看板」(20.4%)、「区のホームページ」(15.4%)、「携帯端末ツール」(9.7%)の順となっている。(図2 - 2 - 1)

地域ブロック別でみると、「あだち防災マップ[避難所マップ]」は第7ブロック(41.1%)で4割を超え高くなっている。また、「地域の掲示板、看板」は第9ブロック(26.2%)と第5ブロック(24.4%)で2割半ば、「区のホームページ」は第1ブロック(20.0%)と第5ブロック(24.4%)で2割半ば、「区のホームページ」は第1ブロック(20.0%)で2割と高くなっている。(図2-2-2)

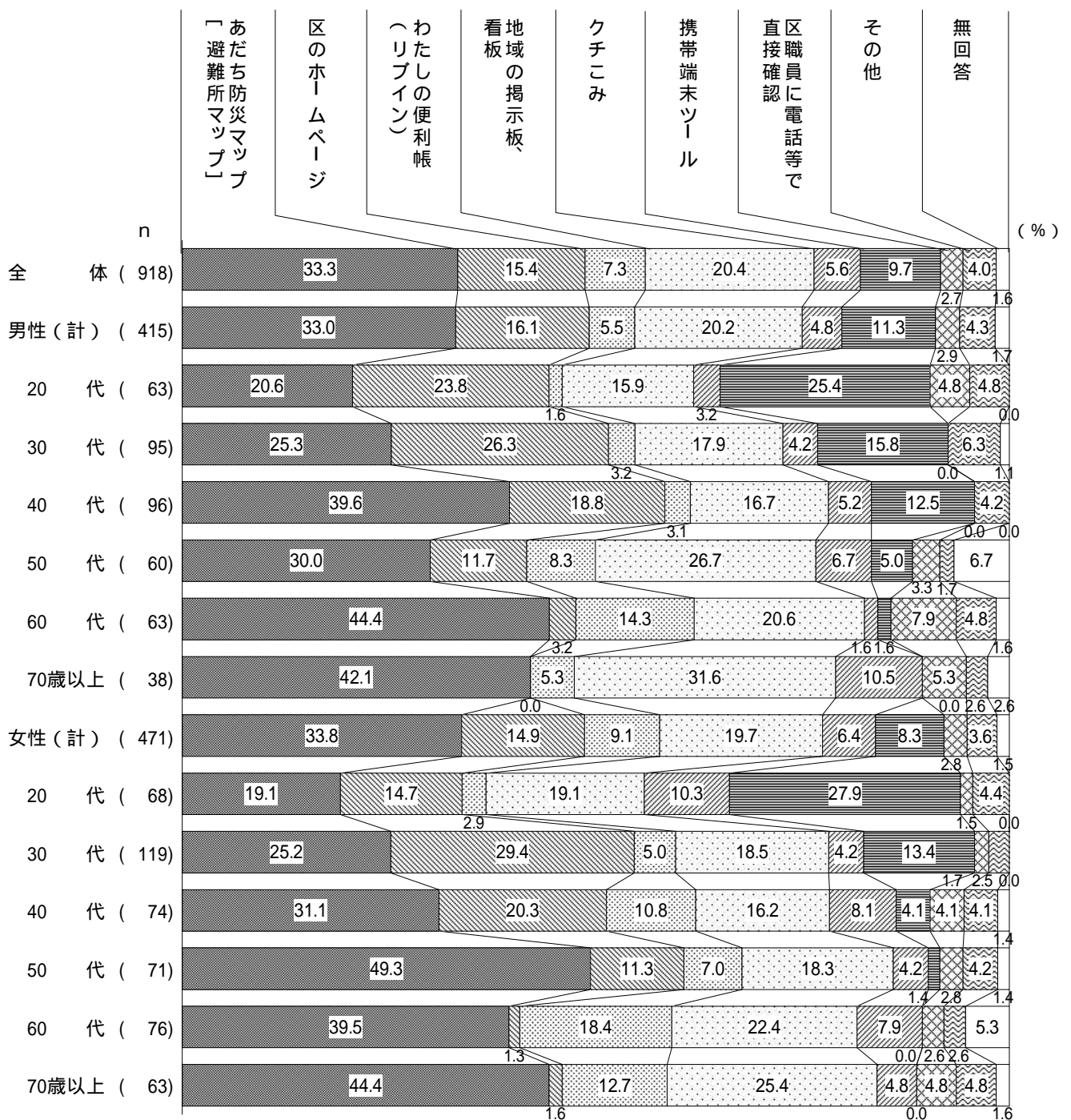
図2-2-2 避難場所等を確認する方法 - 地域ブロック別



性別で見ると、女性で「わたしの便利帳(リブイン)」(9.1%)が男性(5.5%)より3.6ポイント高くなっている。一方、男性で「携帯端末ツール」(11.3%)が女性(8.3%)より3.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「あだち防災マップ[避難所マップ]」は女性50代(49.3%)でほぼ5割、「地域の掲示板、看板」は男性70歳以上(31.6%)で3割を超え、「区のホームページ」は女性30代(29.4%)でほぼ3割と高くなっている。(図2-2-3)

図2-2-3 避難場所等を確認する方法 - 性別、性・年代別

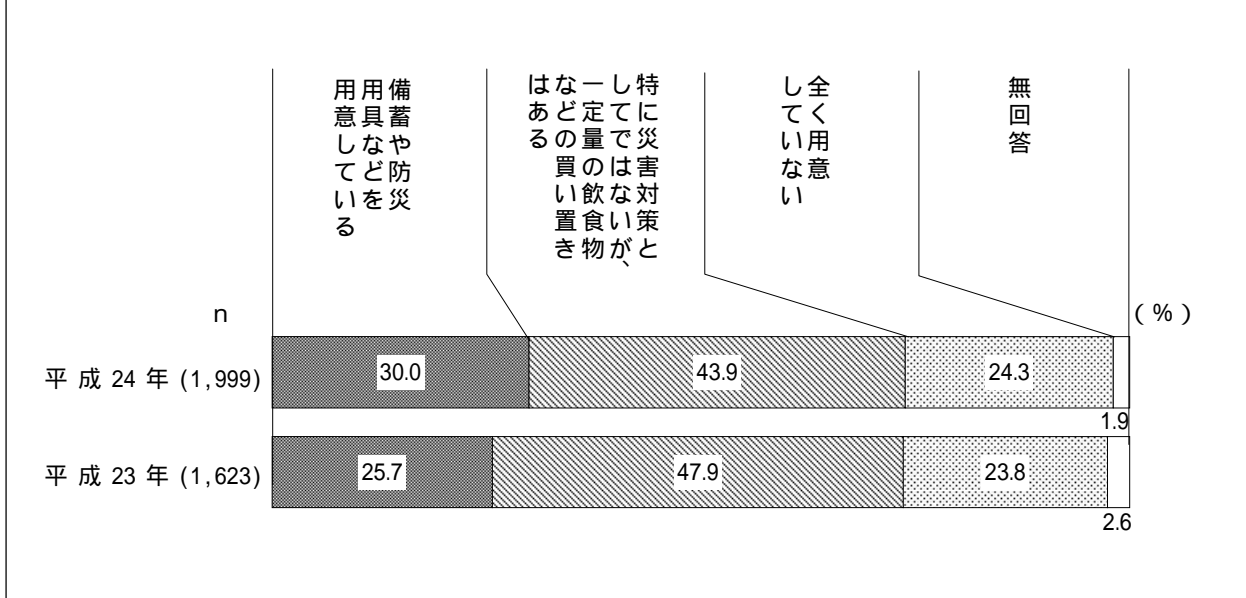


(2) 備蓄や防災用具などの用意

「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が4割を超える

問5 あなたのご家庭では、災害に備えて非常食などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか。( は1つだけ)

図2-3-1 備蓄や防災用具などの用意 - 過年度比較

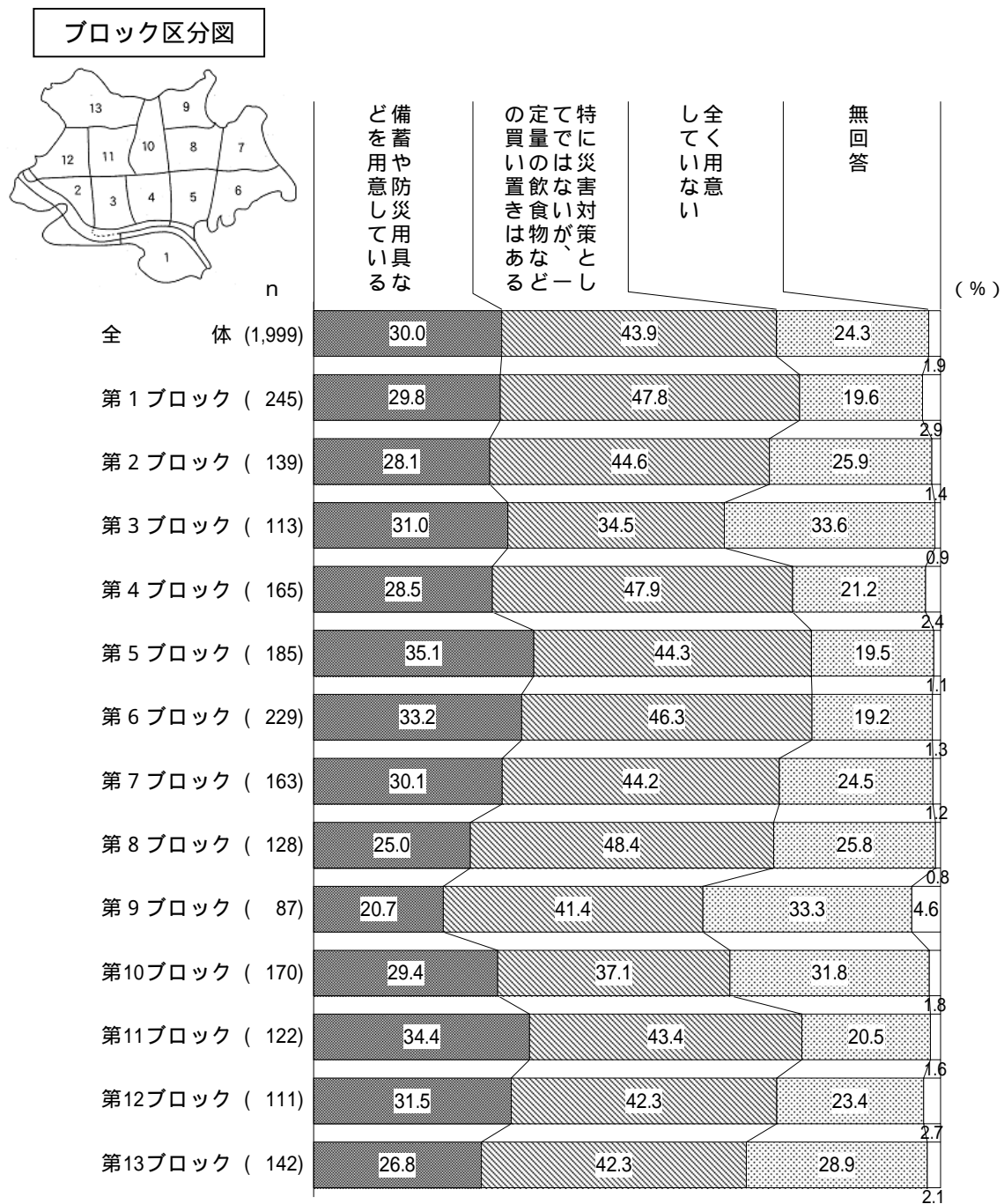


家庭で災害に備えて非常食などの備蓄や防災用具などの用意をしているか聞いたところ、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」(43.9%)が4割を超え、「備蓄や防災用具などを用意している」(30.0%)が3割となっている。また、「全く用意していない」(24.3%)が2割半ばとなっている。

平成23年調査と比較すると、「備蓄や防災用具などを用意している」は4.3ポイント増加している。(図2-3-1)

地域ブロック別でみると、すべてのブロックで「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が最も割合が高く、第8ブロック(48.4%)と第4ブロック(47.9%)と第1ブロック(47.8%)で5割近くと高くなっている。一方、「全く用意していない」は第3ブロック(33.6%)と第9ブロック(33.3%)と第10ブロック(31.8%)で3割を超え高くなっている。(図2-3-2)

図2-3-2 備蓄や防災用具などの用意 - 地域ブロック別

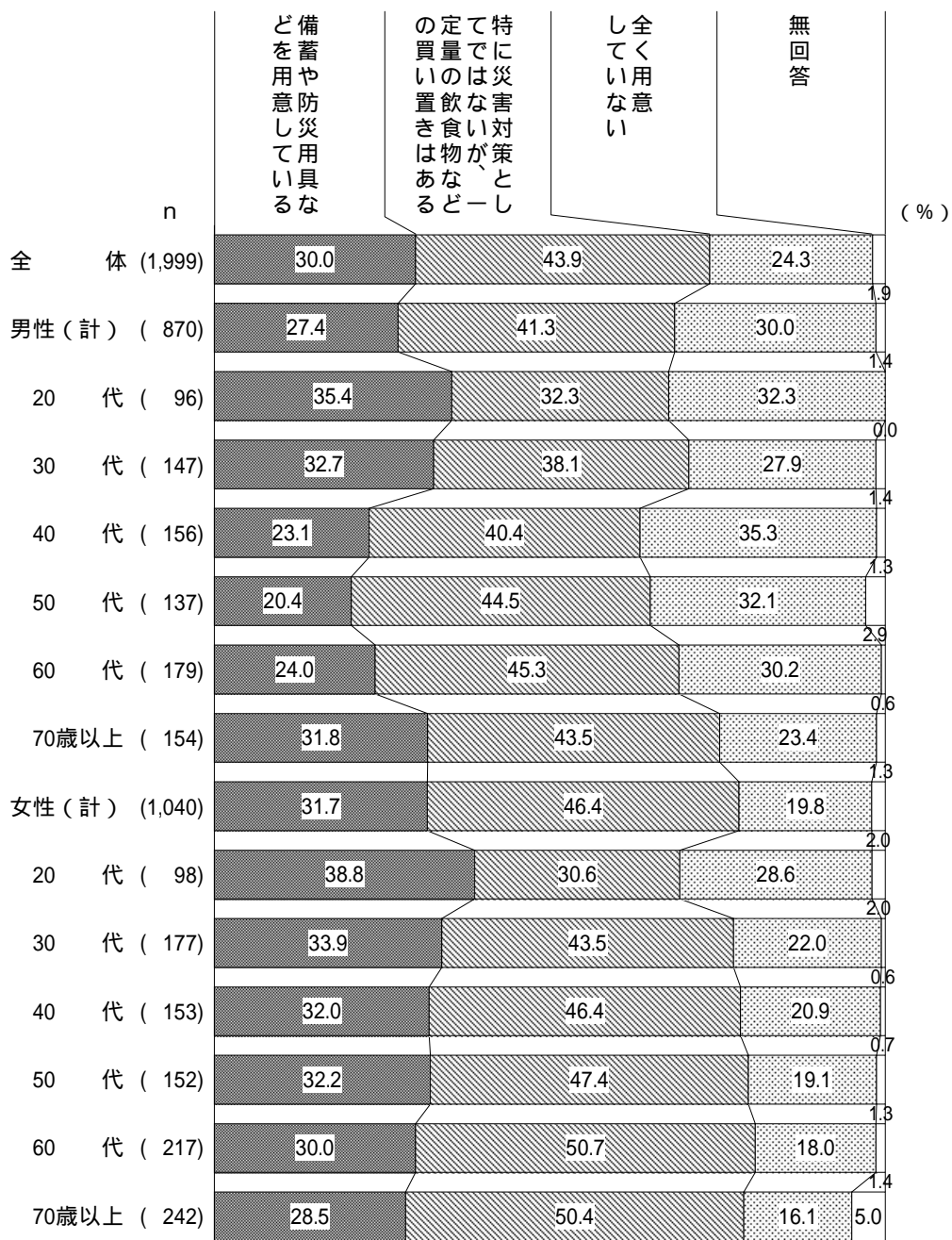




性別で見ると、男性で「全く用意していない」(30.0%)が女性(19.8%)より10.2ポイント高くなっている。一方、女性で「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」(46.4%)が男性(41.3%)より5.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「備蓄や防災用具などを用意している」は女性20代(38.8%)で4割近くと高く、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」は女性60代(50.7%)、70歳以上(50.4%)で5割と高くなっている。一方、「全く用意していない」は男性40代(35.3%)で3割半ばと高くなっている。(図2-3-3)

図2-3-3 備蓄や防災用具などの用意 - 性別、性・年代別





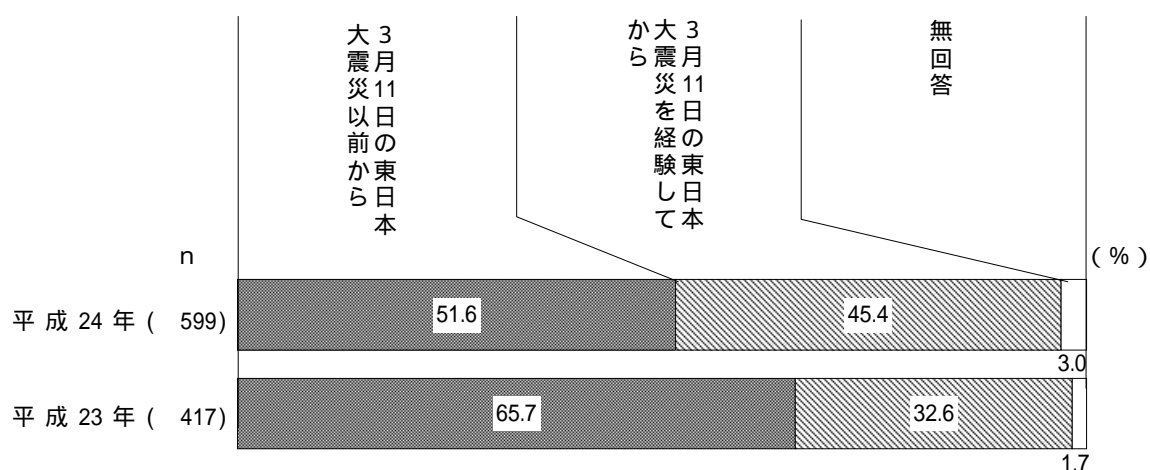
( 2 - 1 ) 備蓄や防災用具などの用意の開始時期

「 3月11日の東日本大震災以前から」が5割を超え、「 3月11日の東日本大震災を経験してから」が4割半ば

( 問5で「備蓄や防災用具などを用意している」とお答えの方に )

問5 - 1 備蓄や防災用具などの用意はいつから始めましたか。( は1つだけ )

図 2 - 4 - 1 備蓄や防災用具などの用意の開始時期 - 過年度比較



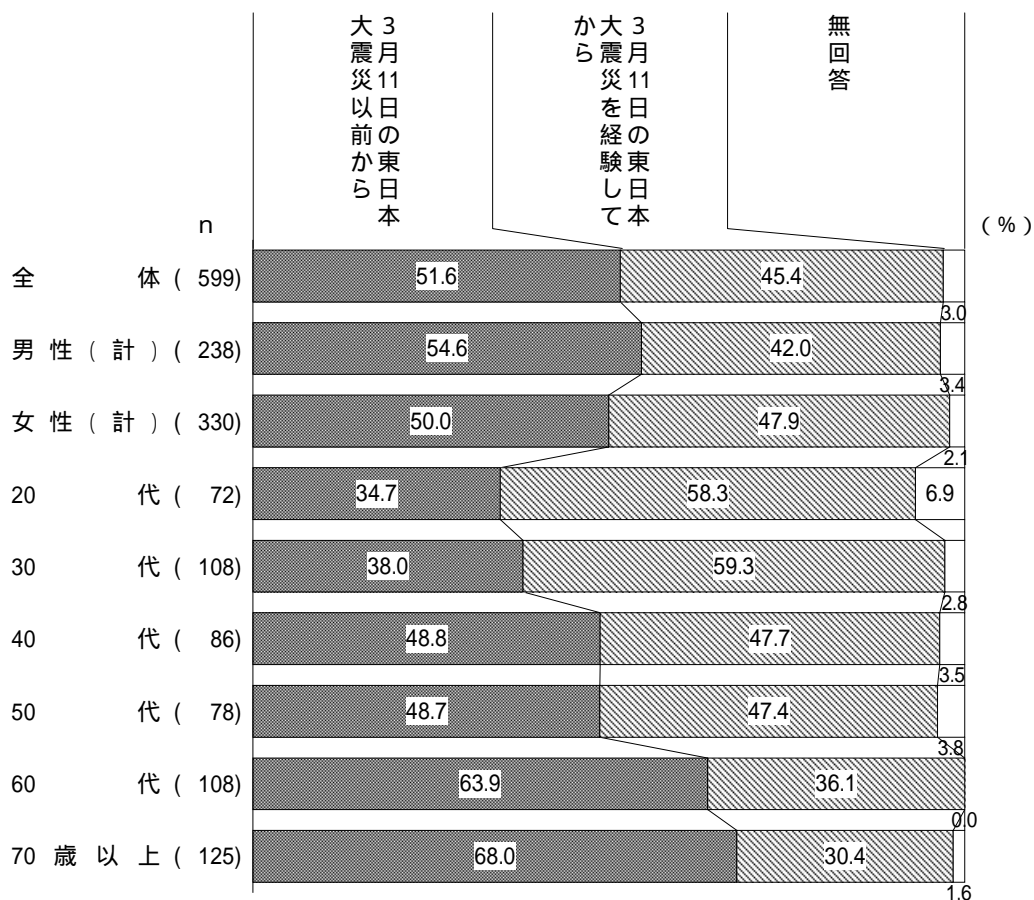
家庭で災害に備えて非常食などの「備蓄や防災用具などを用意している」人(599人)に、備蓄や防災用具などの用意をいつから始めたか聞いたところ、「3月11日の東日本大震災以前から」(51.6%)が5割を超え、「3月11日の東日本大震災を経験してから」(45.4%)が4割半ばとなっている。

平成23年調査と比較すると、「3月11日の東日本大震災以前から」は14.1ポイント減少、「3月11日の東日本大震災を経験してから」は12.8ポイント増加している。( 図 2 - 4 - 1 )

性別で見ると、女性で「3月11日の東日本大震災を経験してから」(47.9%)が男性(42.0%)より5.9ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「3月11日の東日本大震災以前から」はおおむね高い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、70歳以上(68.0%)で7割近く、60代(63.9%)で6割を超え高くなっている。一方、「3月11日の東日本大震災を経験してから」は30代(59.3%)、20代(58.3%)で6割近くと高くなっており、若い世代で大震災後に新たに備蓄を開始したことがわかる。(図2-4-2)

図2-4-2 備蓄や防災用具などの用意の開始時期 - 性別、年代別



(注)「年代」においては、「性」を回答していても「年代」を回答していない方、又はその逆に「年代」を回答していても「性」を回答していない方がいるため、各年代の数を足し上げても「全体」の数とは一致しない。

( 2 - 2 ) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

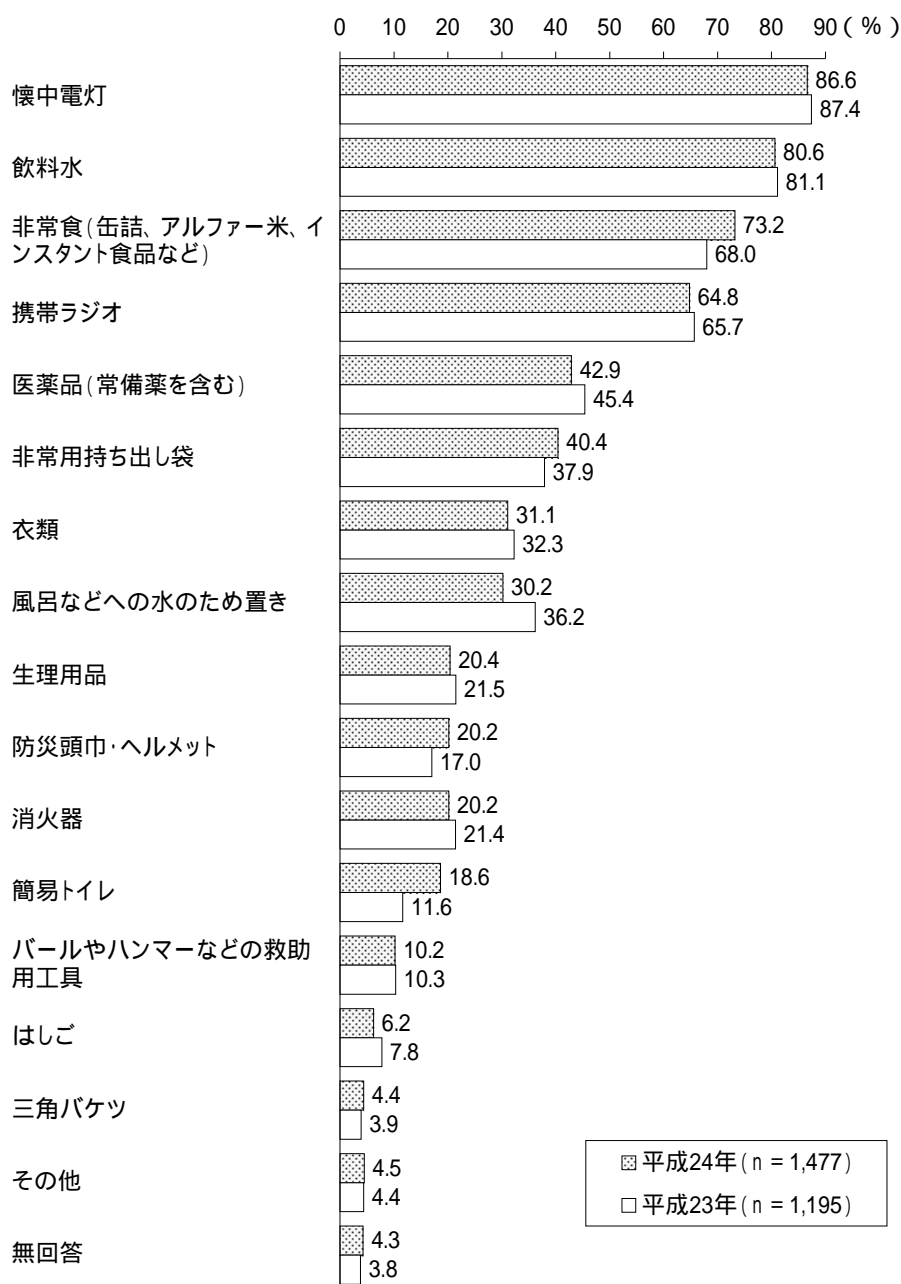
「懐中電灯」が9割近く、「飲料水」が8割

( 問5で「備蓄や防災用具などを用意している」又は「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」とお答えの方に )

問5 - 2 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください。

( はあてはまるものすべて )

図2 - 5 - 1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容 - 過年度比較



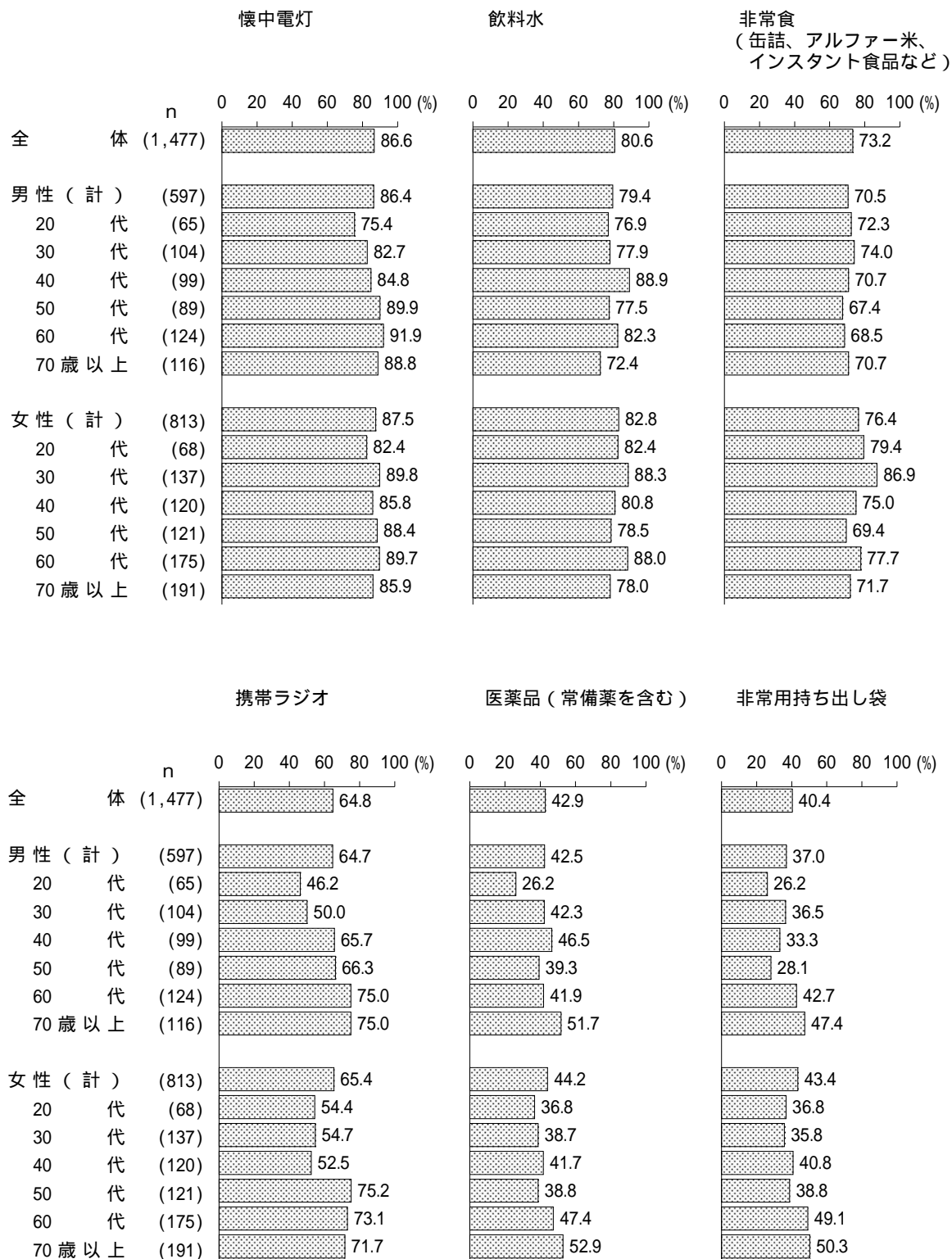
家庭で災害に備えて非常食などの「備蓄や防災用具などを用意している」人と、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」人(1,477人)に、備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を聞いたところ、「懐中電灯」(86.6%)が9割近くで最も高く、次いで「飲料水」(80.6%)、「非常食(缶詰、アルファ米、インスタント食品など)」(73.2%)、「携帯ラジオ」(64.8%)、「医薬品(常備薬を含む)」(42.9%)の順になっている。

平成23年調査と比較すると、「簡易トイレ」は7.0ポイント、「非常食(缶詰、アルファ米、インスタント食品など)」は5.2ポイント、それぞれ増加している。一方、「風呂などへの水のため置き」は6.0ポイント減少している。(図2-5-1)

性別で見ると、女性で「非常用持ち出し袋」(43.4%)が男性(37.0%)より6.4ポイント高く、「非常食(缶詰、アルファ米、インスタント食品など)」(76.4%)で男性(70.5%)より5.9ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「懐中電灯」は男性60代(91.9%)で9割を超え高くなっている。また、「携帯ラジオ」は女性50代(75.2%)、60代(73.1%)、70歳以上(71.7%)と男性60代と70歳以上(ともに75.0%)で7割台と高くなっている。(図2-5-2)

図2-5-2 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容 - 性別、性・年代別(上位6位)



( 2 - 3 ) 家庭での備蓄の量

【飲料水】は「1人あたり3日以上」と「1人あたり2日分」がともに3割を超えている  
 【非常食】は「1人あたり2日分」が3割を超えている

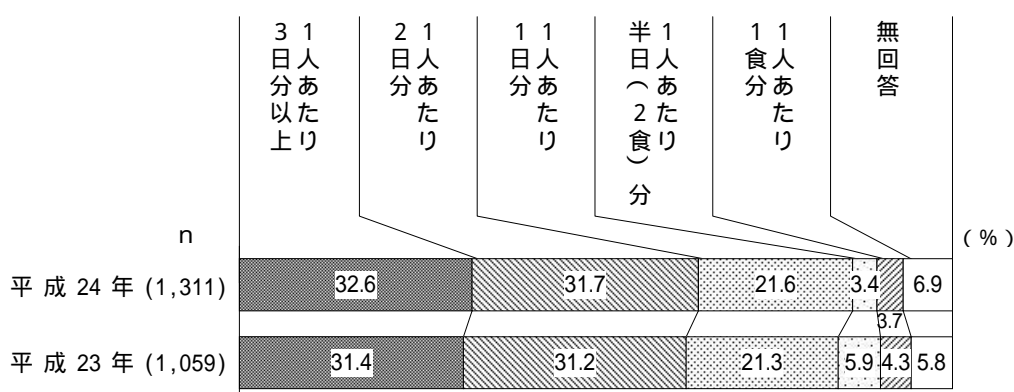
(問5 - 2で「飲料水」又は「非常食」とお答えの方に)

問5 - 3 あなたのご家庭では備蓄の量はどれくらいありますか。

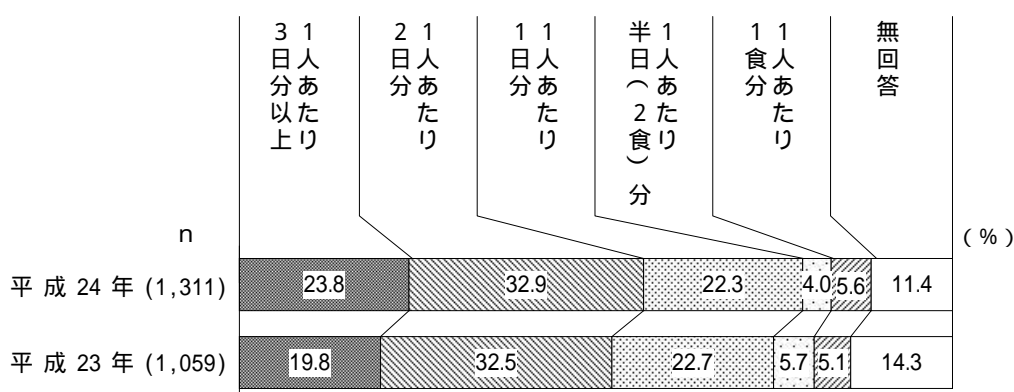
( は各項目とも1つだけ )

図2 - 6 - 1 家庭での備蓄の量 - 過年度比較

( 1 ) 飲料水



( 2 ) 非常食



飲料水は大人1人1日3リットルで計算。飲料水、非常食には日常の買い置きがあるため災害時に活用できるものを含む。

家庭で「飲料水」又は「非常食」を買い置きしている人(1,311人)に、家庭での備蓄の量を聞いたところ、【飲料水】は「1人あたり3日以上」(32.6%)と「1人あたり2日分」(31.7%)がともに3割を超え、「1人あたり1日分」(21.6%)が2割を超えている。

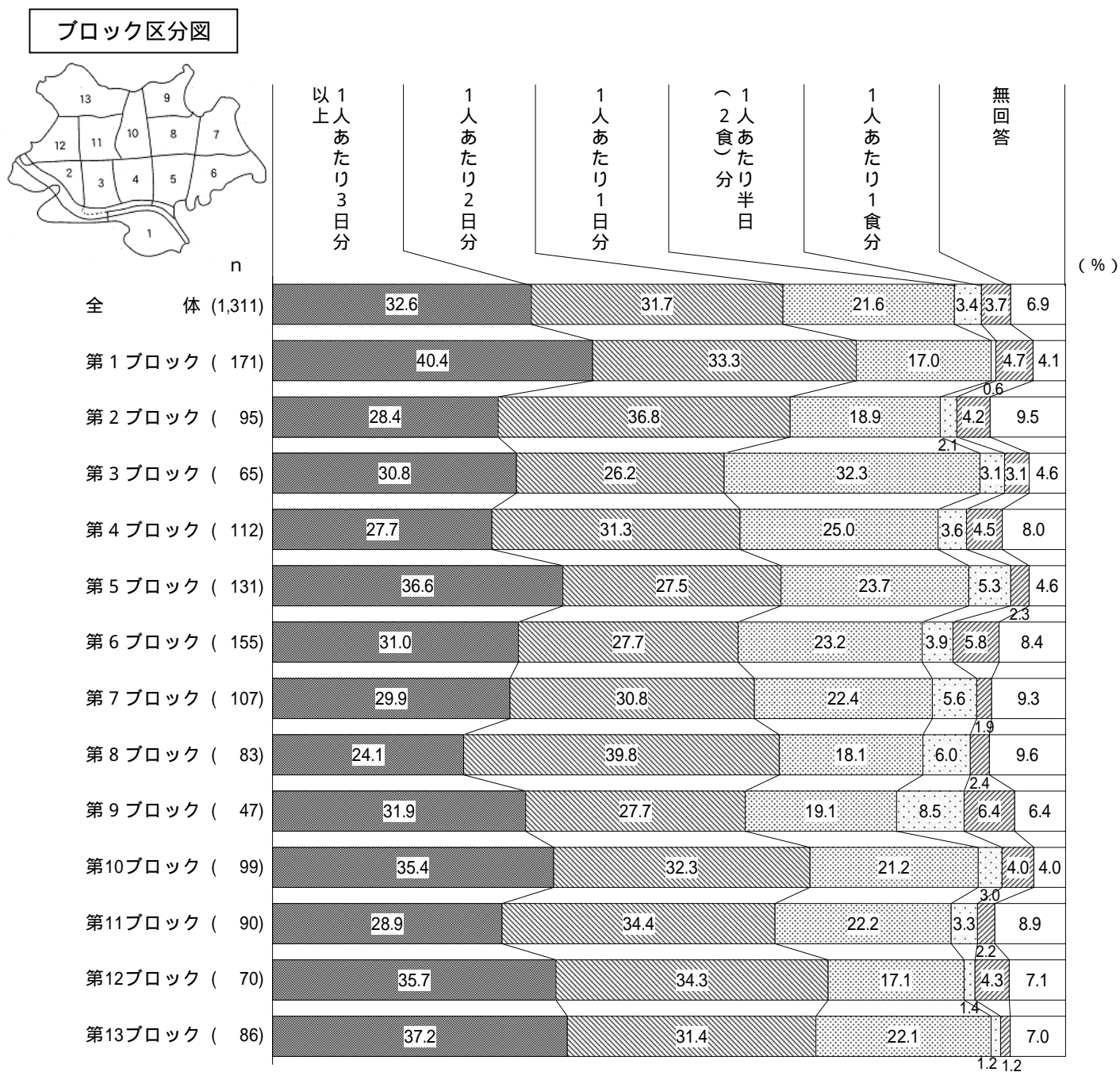
【非常食】は「1人あたり2日分」(32.9%)が3割を超え、「1人あたり3日以上」(23.8%)と「1人あたり1日分」(22.3%)がともに2割を超えている。また、「1人あたり3日以上」では、【飲料水】の方が【非常食】より8.8ポイント高く、【飲料水】の方が備蓄の量が多くなっている。

平成23年調査と比較すると、【飲料水】はほぼ同じ傾向になっているが、【非常食】では「1人あたり3日以上」が4.0ポイント増加している。(図2-6-1)

地域ブロック別でみると、「1人あたり3日以上」は第1ブロック(40.4%)で4割と高くなっている。また、「1人あたり2日分」は第8ブロック(39.8%)でほぼ4割、「1人あたり1日分」は第3ブロック(32.3%)で3割を超え高くなっている。(図2-6-2)

図2-6-2 家庭での備蓄の量 - 地域ブロック別(1)

(1) 飲料水

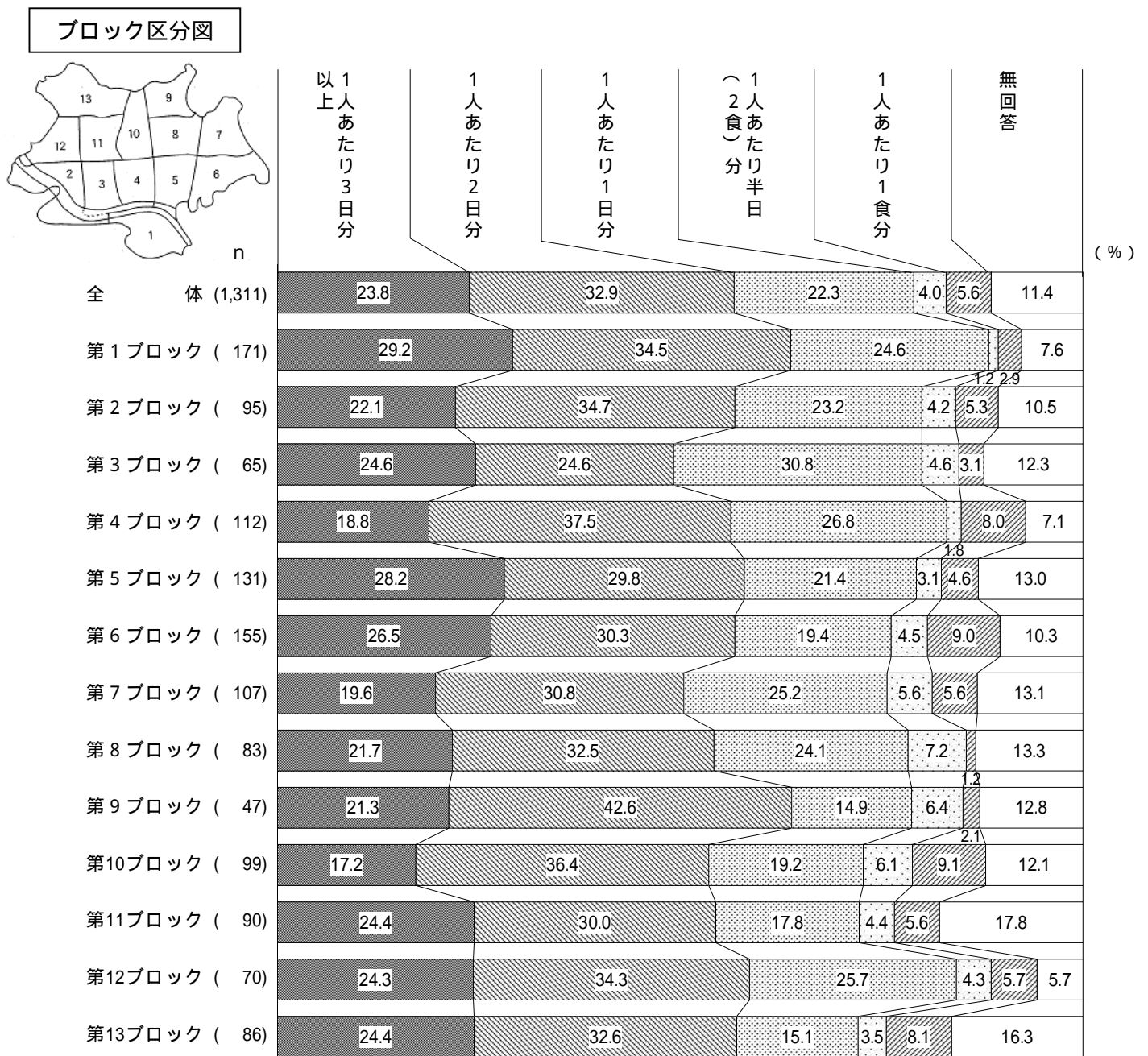




地域ブロック別でみると、「1人あたり3日以上」は第1ブロック(29.2%)でほぼ3割と最も高くなっている。また、「1人あたり2日分」は第9ブロック(42.6%)で4割を超え、「1人あたり1日分」は第3ブロック(30.8%)で3割と高くなっている。(図2-6-3)

図2-6-3 家庭での備蓄の量 - 地域ブロック別(2)

(2) 非常食

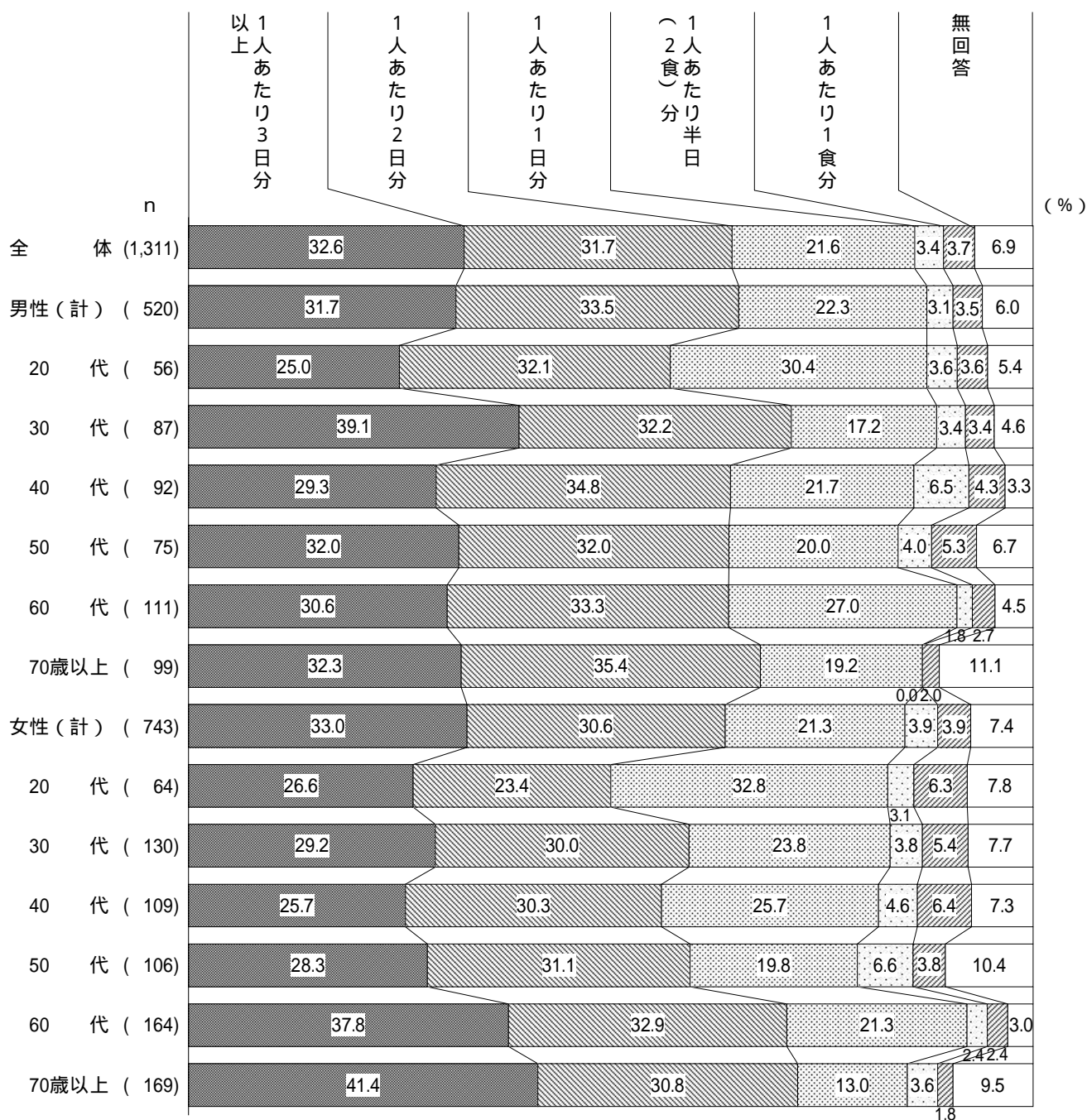


性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、「1人あたり3日分以上」は女性70歳以上（41.4%）で4割を超え高くなっている。また、「1人あたり2日分」は男性70歳以上（35.4%）と40代（34.8%）で3割半ば、「1人あたり1日分」は女性20代（32.8%）、男性20代（30.4%）で3割を超え高くなっている。（図2-6-4）

図2-6-4 家庭での備蓄の量 - 性別、性・年代別（1）

（1）飲料水

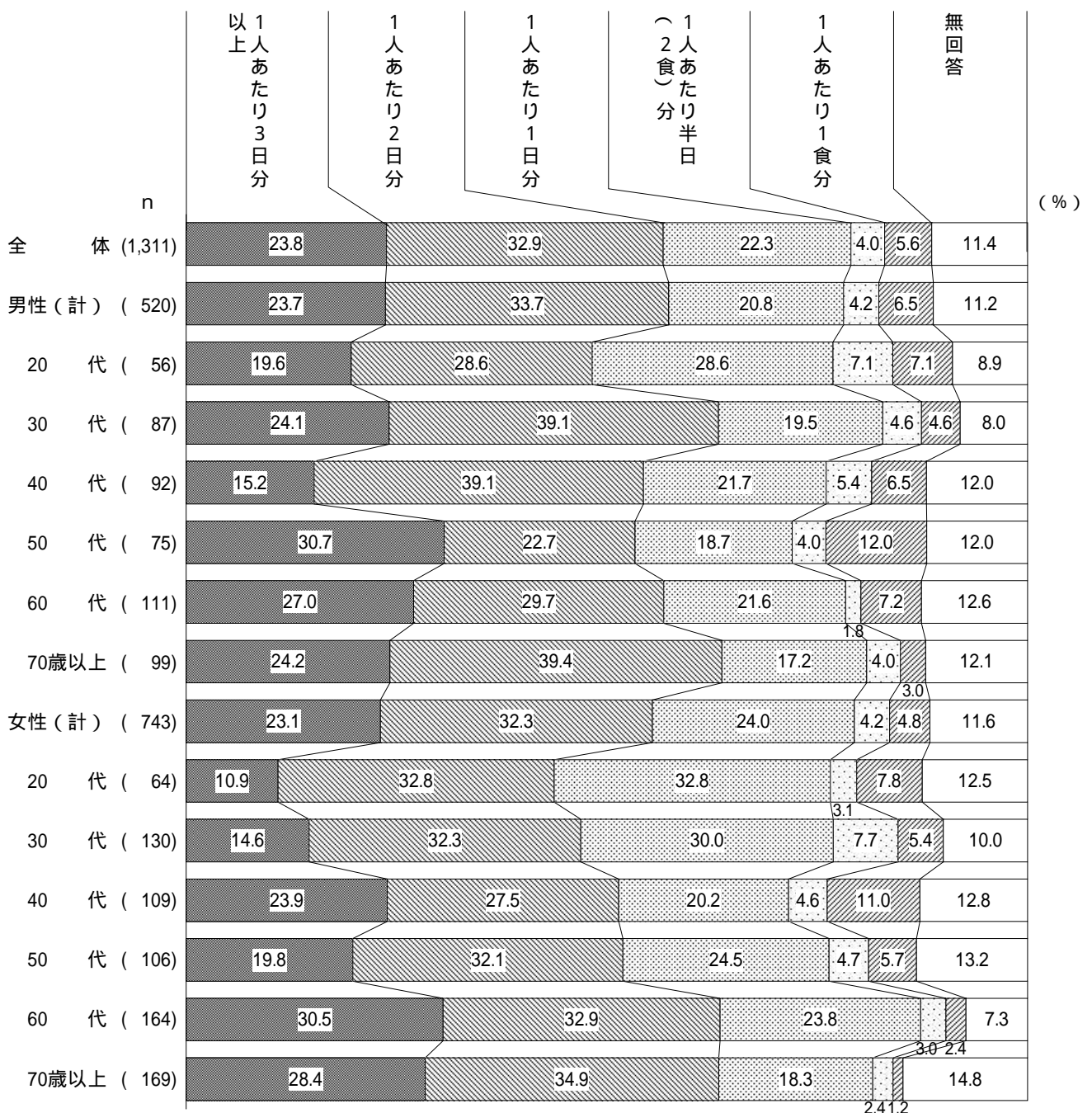


性別で見ると、女性で「1人あたり1日分」(24.0%)が男性(20.8%)より3.2ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「1人あたり3日以上」は男性50代(30.7%)と女性60代(30.5%)で3割を超え高くなっている。また、「1人あたり2日分」は男性70歳以上(39.4%)、30代と40代(ともに39.1%)でほぼ4割と高くなっている。(図2-6-5)

図2-6-5 家庭での備蓄の量 - 性別、性・年代別(2)

(2) 非常食

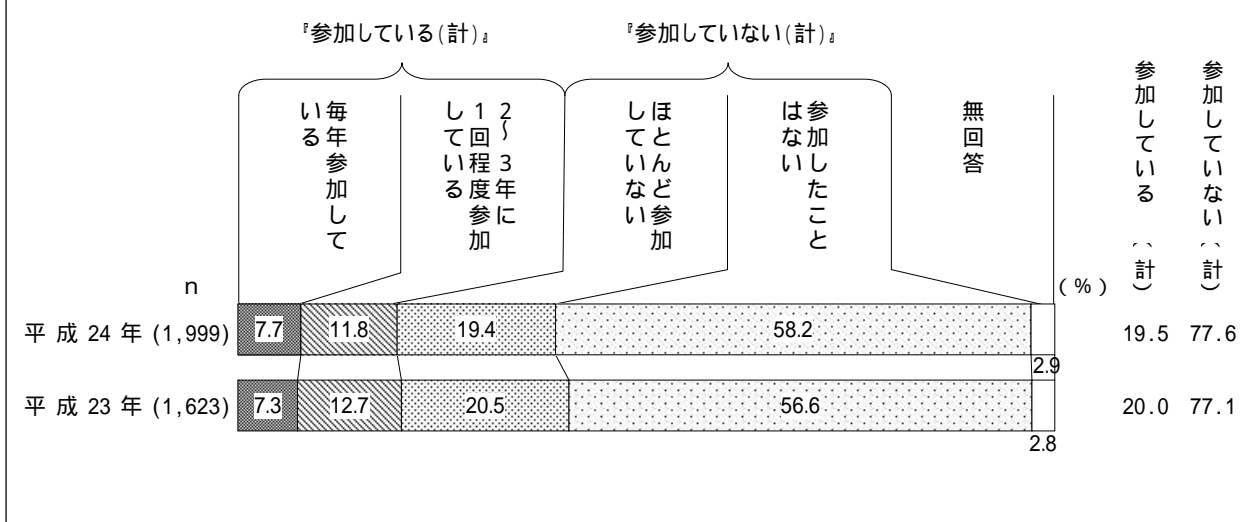


(3) 町会や自治会の防災訓練への参加状況

『参加している』人は2割にとどまる

問6 あなたは、町会や自治会の防災訓練に参加していますか。( は1つだけ)

図2-7-1 町会や自治会の防災訓練への参加状況 - 過年度比較

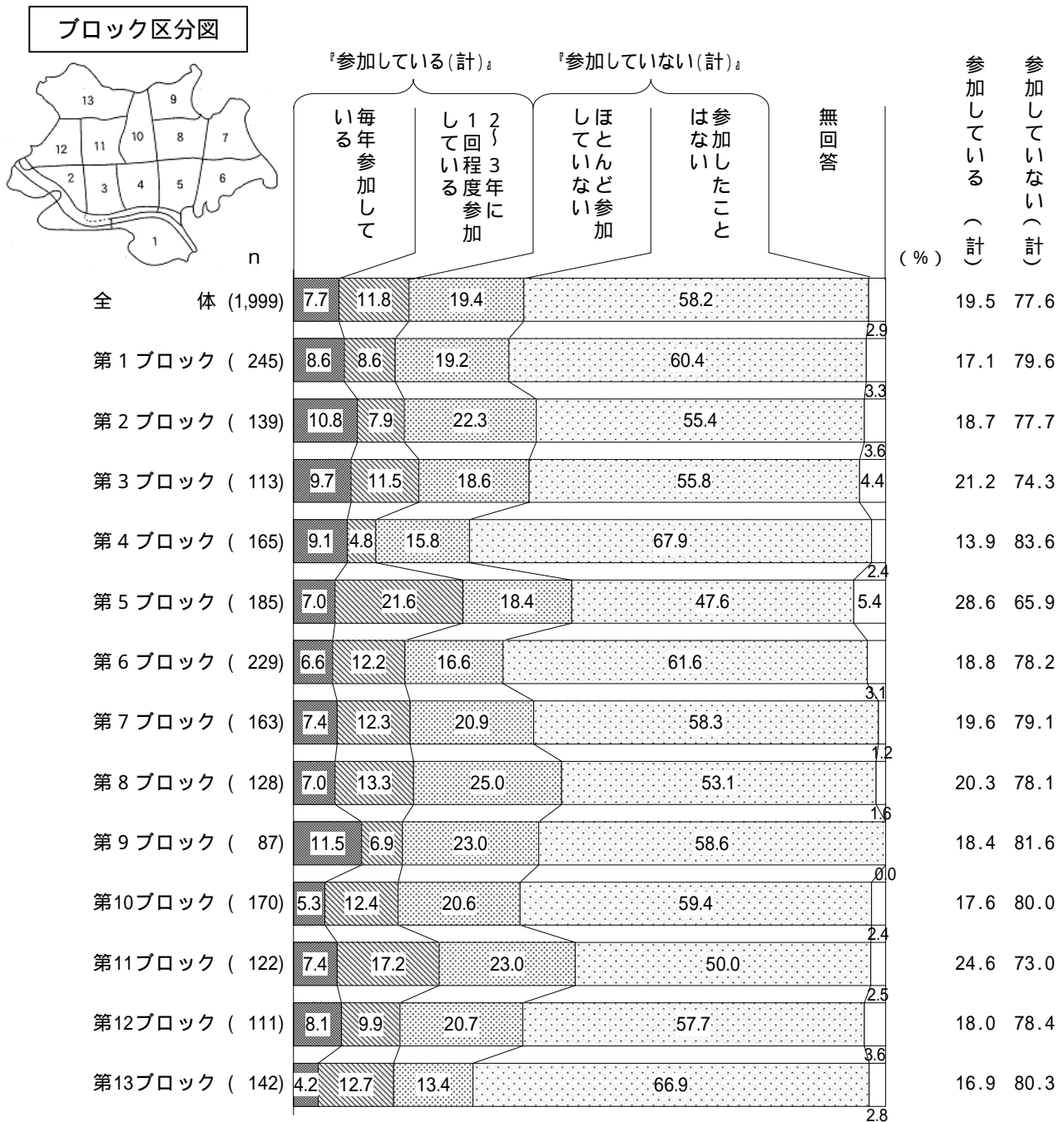


町会や自治会の防災訓練に参加しているか聞いたところ、「毎年参加している」(7.7%)と「2~3年に1回程度参加している」(11.8%)を合わせた『参加している(計)』(19.5%)がほぼ2割となっている。一方、「参加したことはない」(58.2%)が6割近くとなっており、これに「ほとんど参加していない」(19.4%)を合わせた『参加していない(計)』(77.6%)が8割近くとなっている。

平成23年調査と比較すると、ほぼ同じ傾向になっている。(図2-7-1)

地域ブロック別でみると、「毎年参加している」は第9ブロック（11.5%）、第2ブロック（10.8%）で1割を超え高く、『参加している（計）』では第5ブロック（28.6%）が3割近くと最も高くなっている。一方、『参加していない（計）』は第4ブロック（83.6%）と第9ブロック（81.6%）、第13ブロック（80.3%）で8割を超え高くなっている。（図2 - 7 - 2）

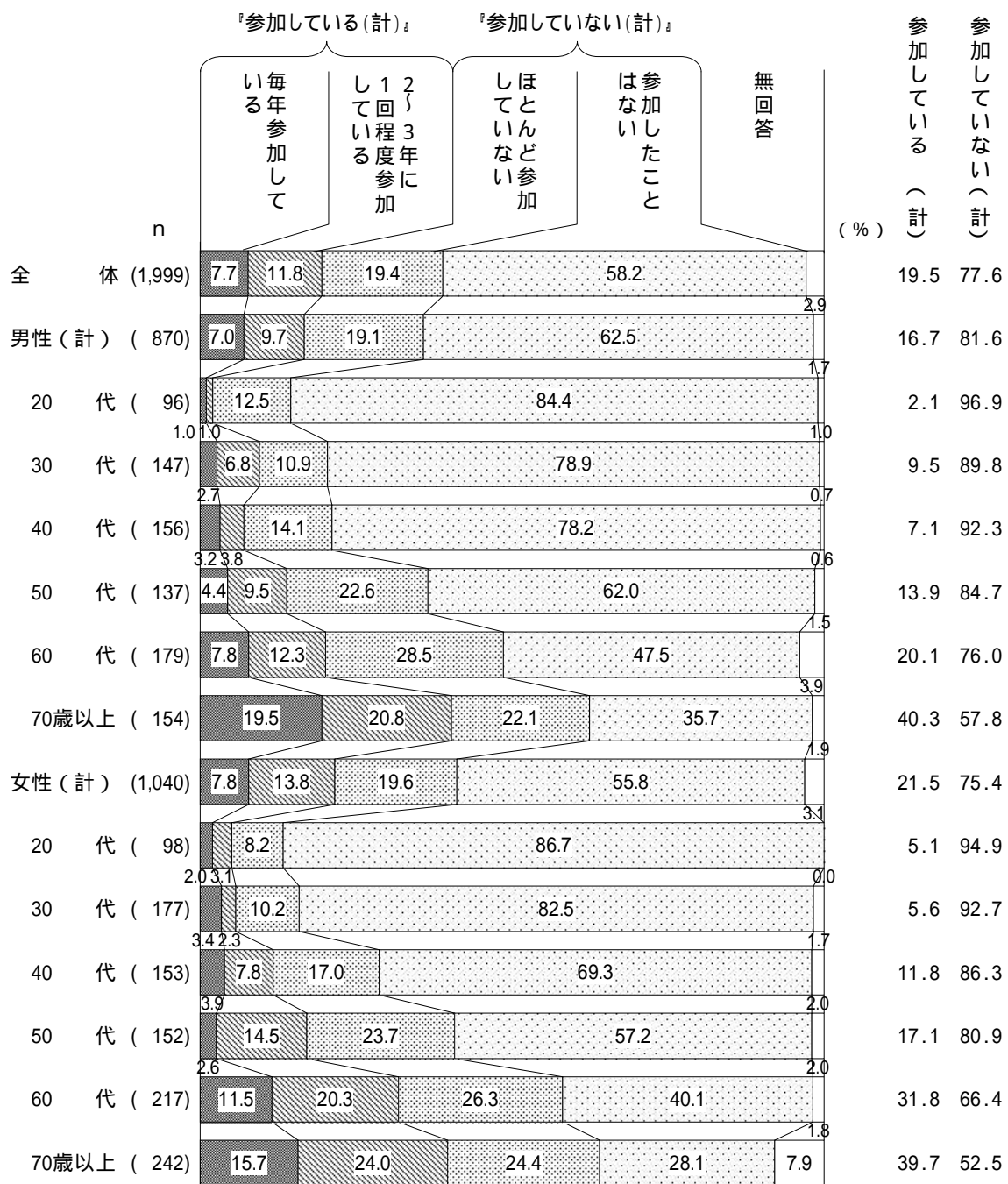
図2 - 7 - 2 町会や自治会の防災訓練への参加状況 - 地域ブロック別



性別で見ると、男性で『参加していない(計)』(81.6%)が女性(75.4%)より6.2ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「毎年参加している」は男性70歳以上(19.5%)でほぼ2割と高く、「2~3年に1回程度参加している」は女性70歳以上(24.0%)で2割半ばと高くなっている。また、『参加している(計)』は男女ともおおむね高い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、特に70歳以上(男性40.3%・女性39.7%)で4割と高くなっている。一方、『参加していない(計)』は男性20代(96.9%)と40代(92.3%)、女性20代(94.9%)と30代(92.7%)で9割台と高くなっている。(図2-7-3)

図2-7-3 町会や自治会の防災訓練への参加状況 - 性別、性・年代別



( 3 - 1 ) 防災訓練へ参加しない理由

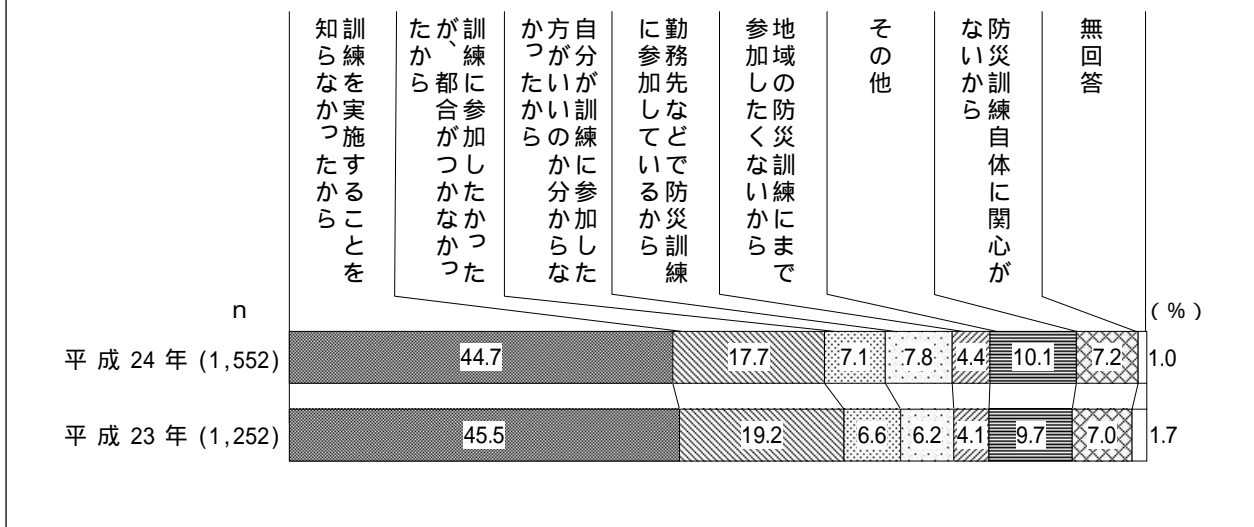
「訓練を実施することを知らなかったから」が4割半ばで最も高い

(問6で「ほとんど参加していない」又は「参加したことはない」とお答えの方に)

問6 - 1 町会や自治会の防災訓練に参加しない理由をお答えください。

( は最もあてはまるもの1つ)

図2 - 8 - 1 防災訓練へ参加しない理由 - 過年度比較



町会や自治会の防災訓練に「ほとんど参加していない」又は「参加したことはない」人(1,552人)に、理由を聞いたところ、「訓練を実施することを知らなかったから」(44.7%)が4割半ばで最も高く、次いで「訓練に参加したかったが、都合がつかないから」(17.7%)が2割近くとなっている。一方、「防災訓練自体に関心がないから」(7.2%)は1割未満となっている。

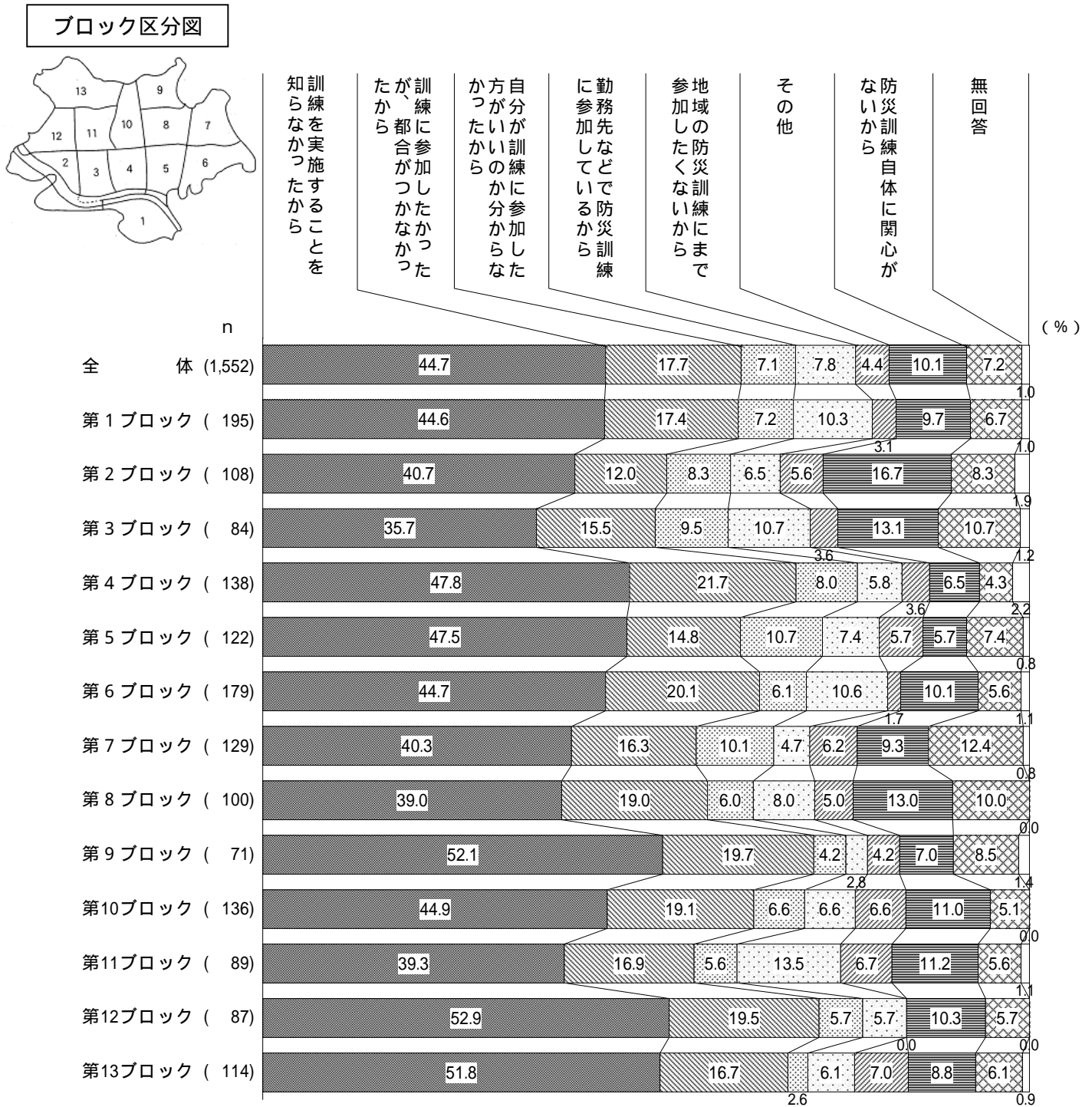
平成 23 年調査と比較すると、ほぼ同じ傾向になっている。(図2 - 8 - 1)



地域ブロック別でみると、「訓練を実施することを知らなかったから」は第12ブロック(52.9%)と第9ブロック(52.1%)と第13ブロック(51.8%)で5割を超え高くなっている。

(図2-8-2)

図2-8-2 防災訓練へ参加しない理由 - 地域ブロック別

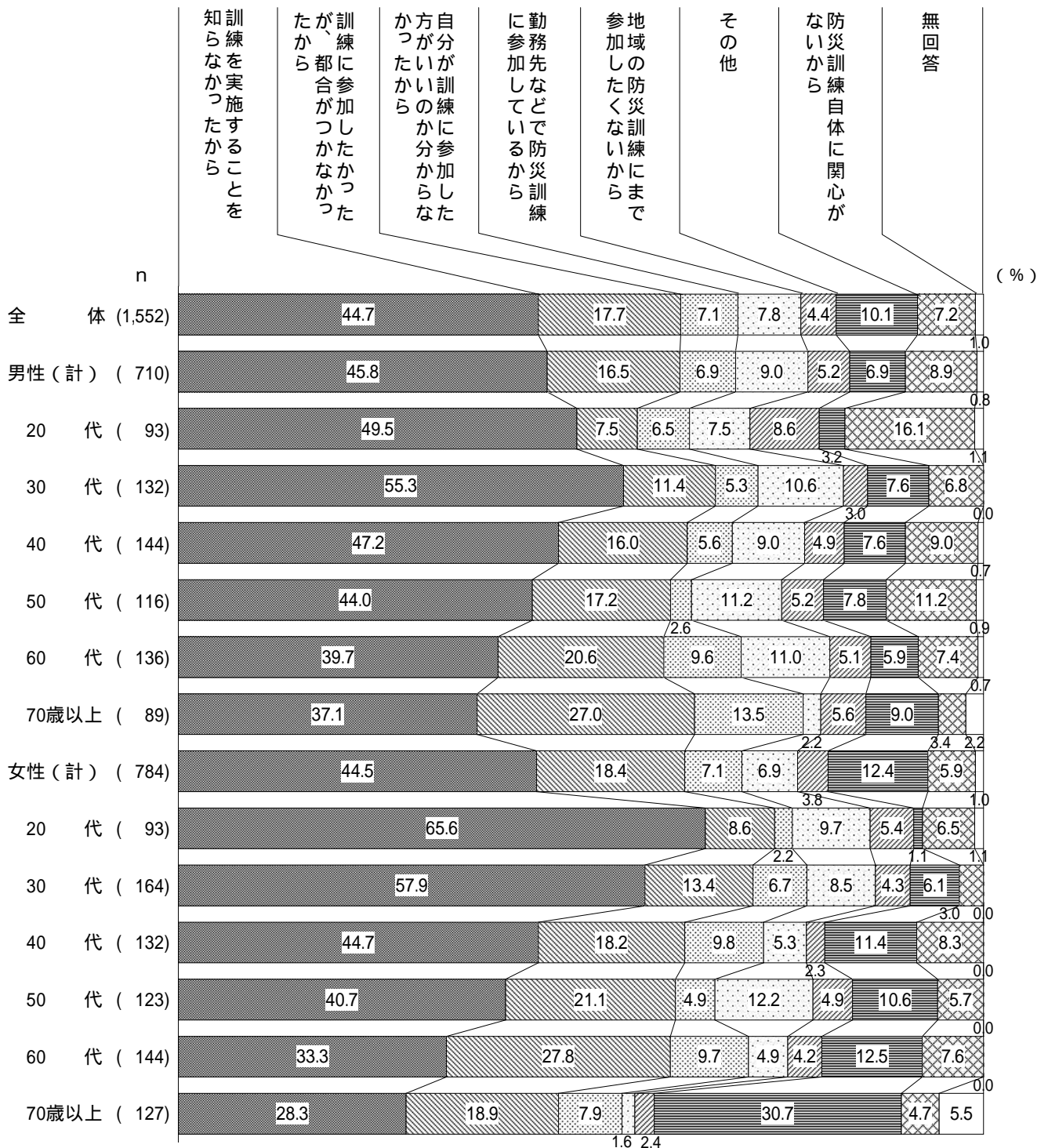




性別で見ると、男性で「防災訓練自体に関心がないから」（8.9%）が女性（5.9%）より3.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「訓練を実施することを知らなかったから」は男女ともおおむね低い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、特に女性20代（65.6%）で6割半ばと高くなっている。また、「訓練に参加したかったが、都合がつかなかったから」は女性60代（27.8%）と男性70歳以上（27.0%）で3割近くと高くなっている。（図2-8-3）

図2-8-3 防災訓練へ参加しない理由 - 性別、性・年代別

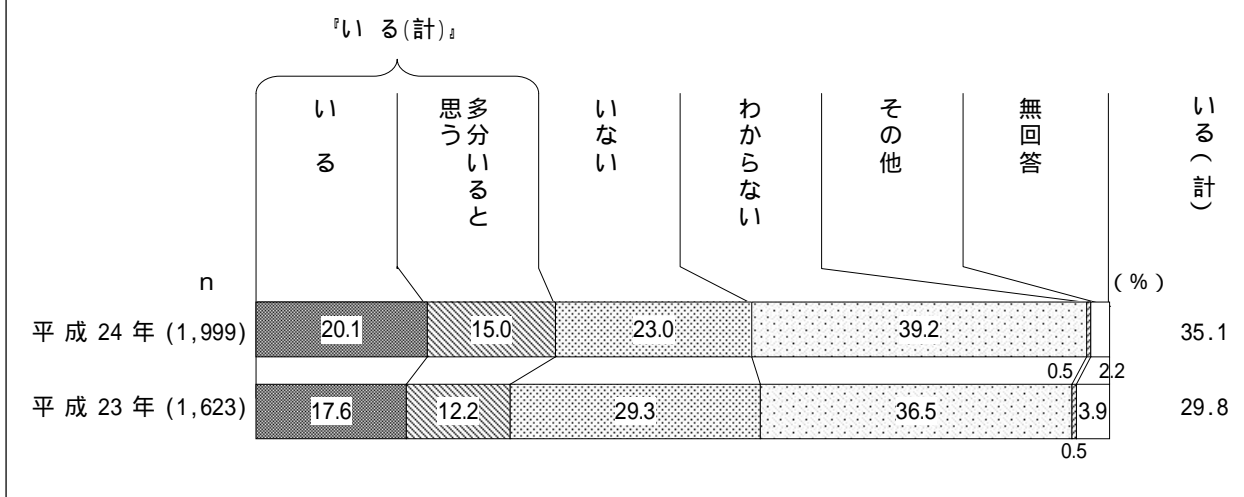


(4) 災害弱者・災害時要援護者の有無

3割半ばの人が『いる』と回答

問7 あなたの近隣に高齢者のみの世帯、一人暮らしの高齢者、障がい者など災害発生時に自力あるいは家族等の支援を受けても避難することが困難と思われる災害弱者・災害時要援護者といわれる方はいますか。(は1つだけ)

図2-9-1 災害弱者・災害時要援護者の有無 - 過年度比較

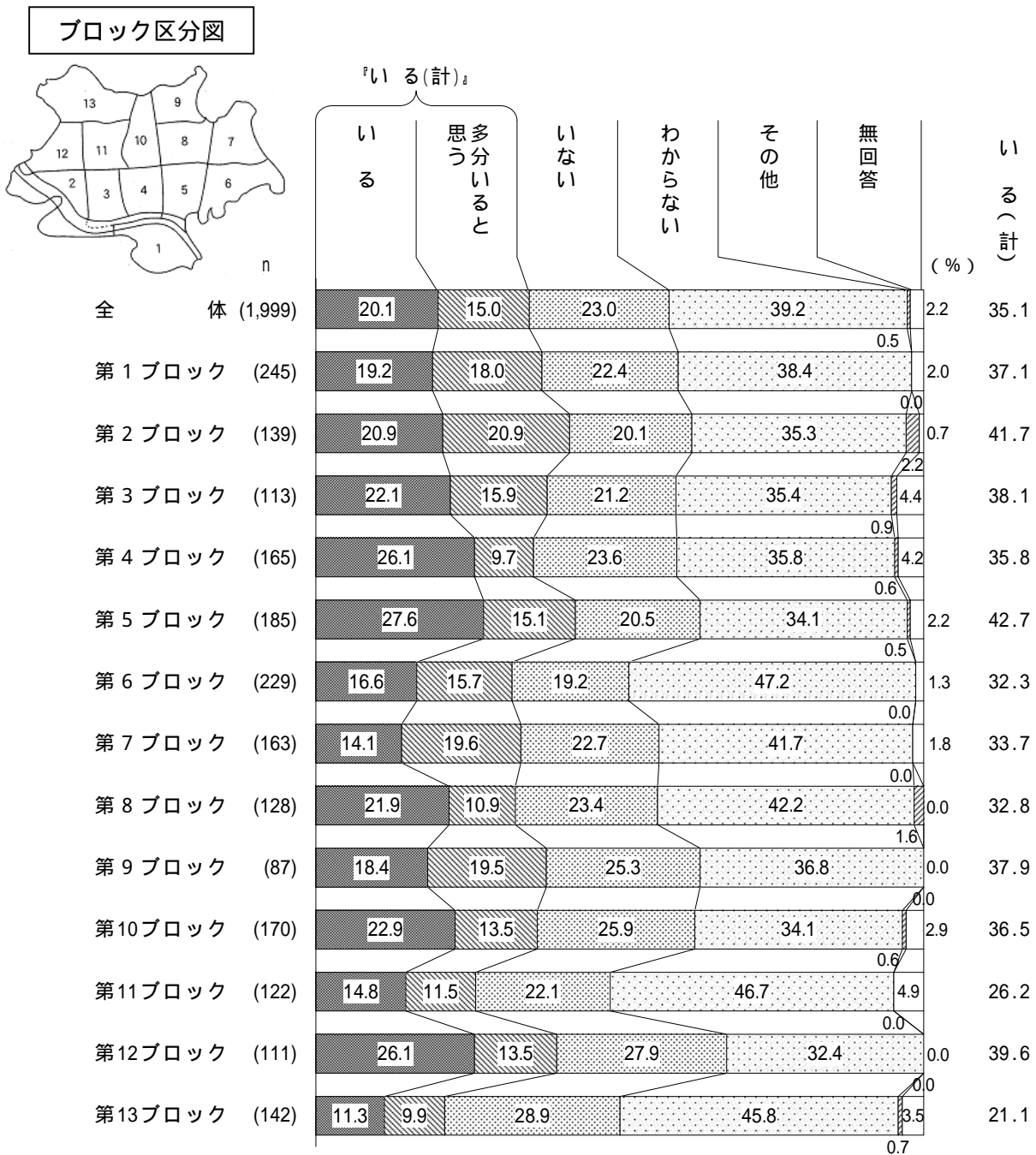


近隣に災害弱者・災害時要援護者がいるか聞いたところ、「いる」(20.1%)が2割で、これに「多分いると思う」(15.0%)を合わせた『いる(計)』(35.1%)が3割半ばとなっている。また、「いない」(23.0%)が2割を超え、「わからない」(39.2%)がほぼ4割となっている。

平成23年調査と比較すると、『いる(計)』は5.3ポイント増加し、「いない」は6.3ポイント減少している。(図2-9-1)

地域ブロック別でみると、『いる(計)』は第5ブロック(42.7%)と第2ブロック(41.7%)で4割を超え高くなっている。一方、『いない』は第13ブロック(28.9%)と第12ブロック(27.9%)で3割近くと高くなっている。(図2-9-2)

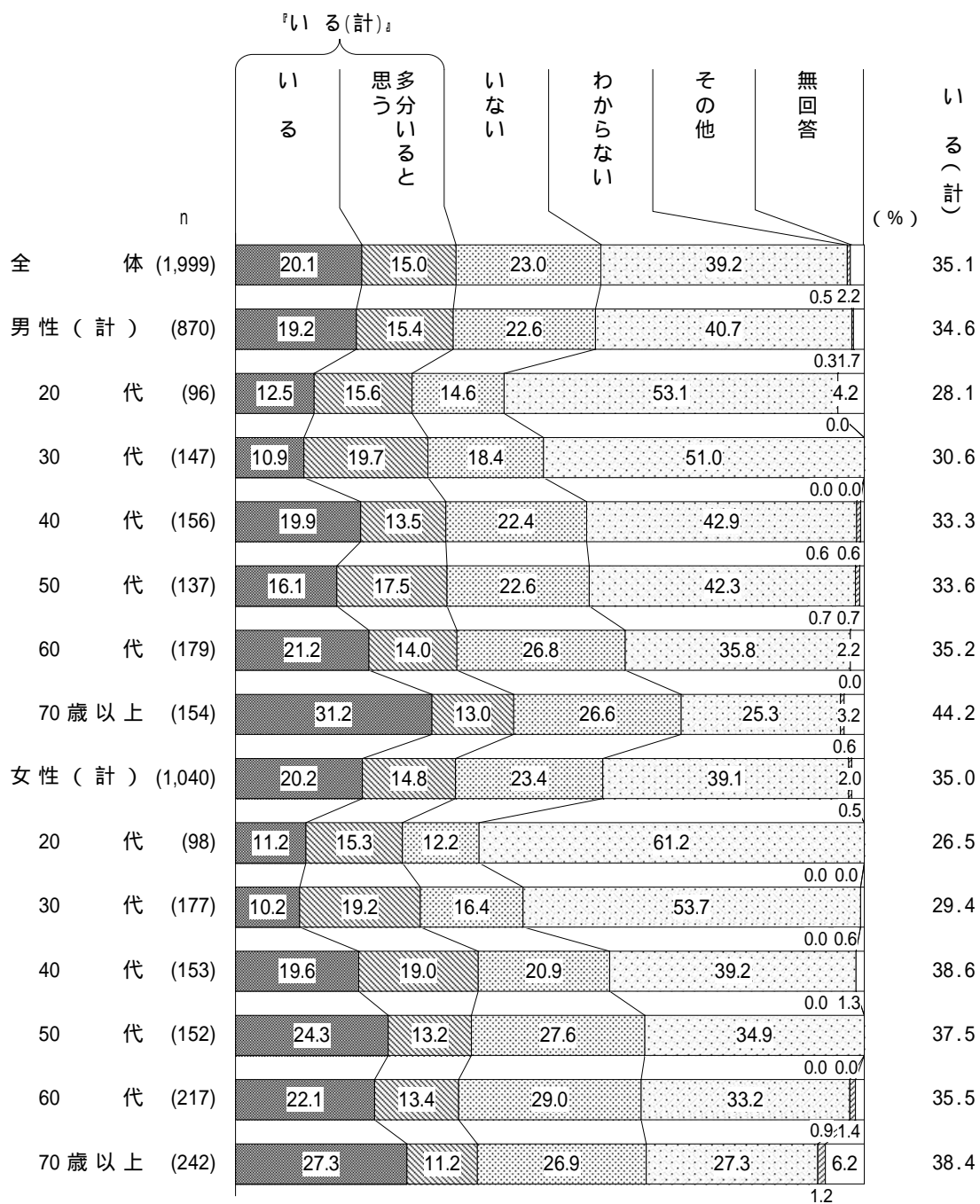
図2-9-2 災害弱者・災害時要援護者の有無 - 地域ブロック別



性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、「いる」は男性70歳以上(31.2%)で3割を超え最も高く、『いる(計)』でも男性70歳以上(44.2%)で4割半ばと最も高くなっている。また、「わからない」は男女とも低い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、特に女性20代(61.2%)で6割を超え高くなっている。(図2-9-3)

図2-9-3 災害弱者・災害時要援護者の有無 - 性別、性・年代別



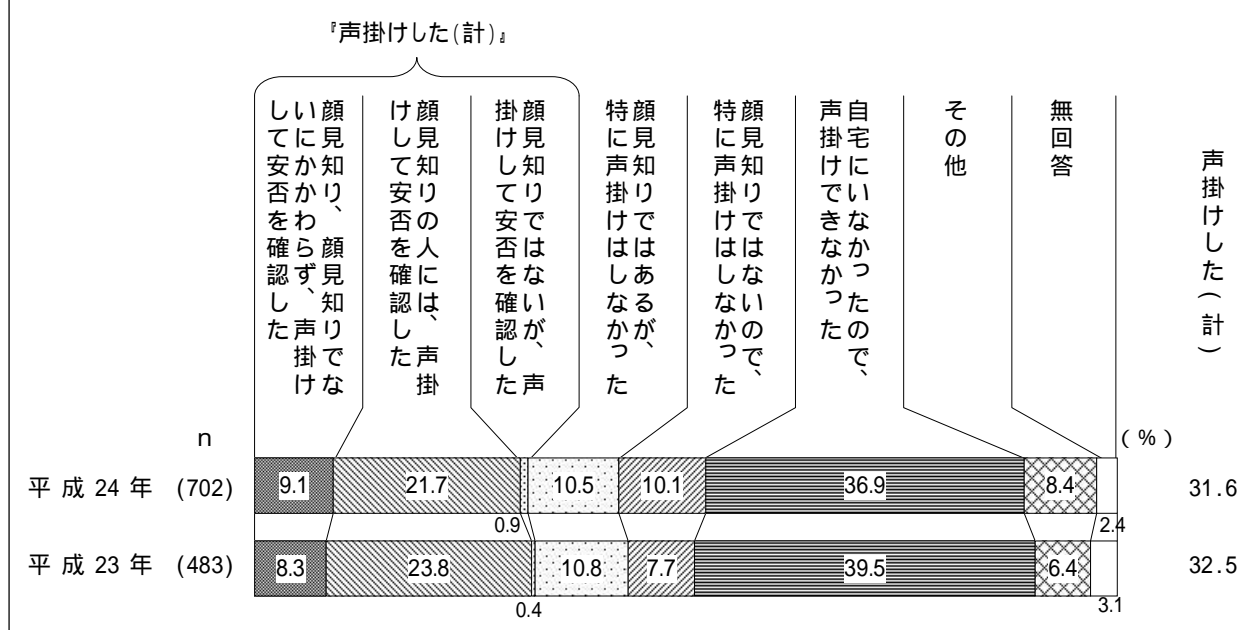
( 4 - 1 ) 災害弱者・災害時要援護者への声掛けの有無

『声掛けした』人が3割を超えている。また、「自宅にいなかったので、声掛けできなかった」人が4割近く

(問7で「いる」又は「多分いると思う」とお答えの方に)

問7 - 1 東日本大震災が発生した際に災害弱者・災害時要援護者といわれる方に声掛けをしましたか。( は1つだけ)

図2 - 10 - 1 災害弱者・災害時要援護者への声掛けの有無 - 過年度比較

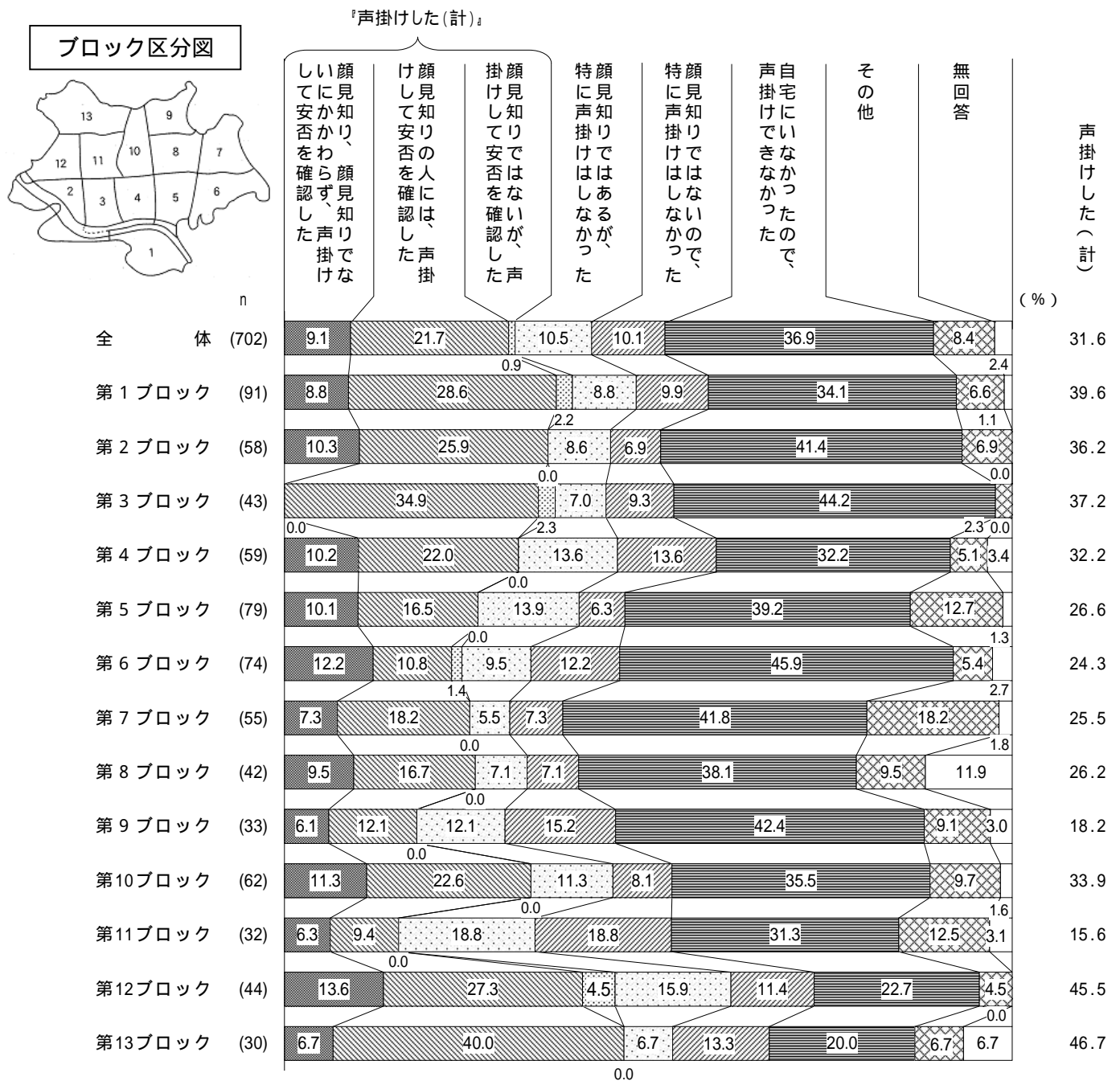


近隣に災害弱者・災害時要援護者が「いる」又は「多分いると思う」人(702人)に、震災が発生した際にその方々へ声掛けをしたか聞いたところ、「顔見知りの人には、声掛けして安否を確認した」(21.7%)が2割を超え、これに「顔見知り、顔見知りでないにかかわらず、声掛けして安否を確認した」(9.1%)と「顔見知りではないが、声掛けして安否を確認した」(0.9%)を合わせた『声掛けした(計)』(31.6%)が3割を超えている。また、「自宅にいなかったので、声掛けできなかった」(36.9%)が4割近くとなっている。

平成23年調査と比較すると、ほぼ同じ回答割合になっている。(図2 - 10 - 1)

地域ブロック別でみると、「顔見知りの人には、声掛けして安否を確認した」は第13ブロック(40.0%)で4割と高くなっている。また、『声掛けした(計)』でも第13ブロック(46.7%)、第12ブロック(45.5%)で4割半ばと高くなっている。一方、「自宅にいなかったため、声掛けできなかった」は第6ブロック(45.9%)と第3ブロック(44.2%)で4割半ばと高くなっている。(図2-10-2)

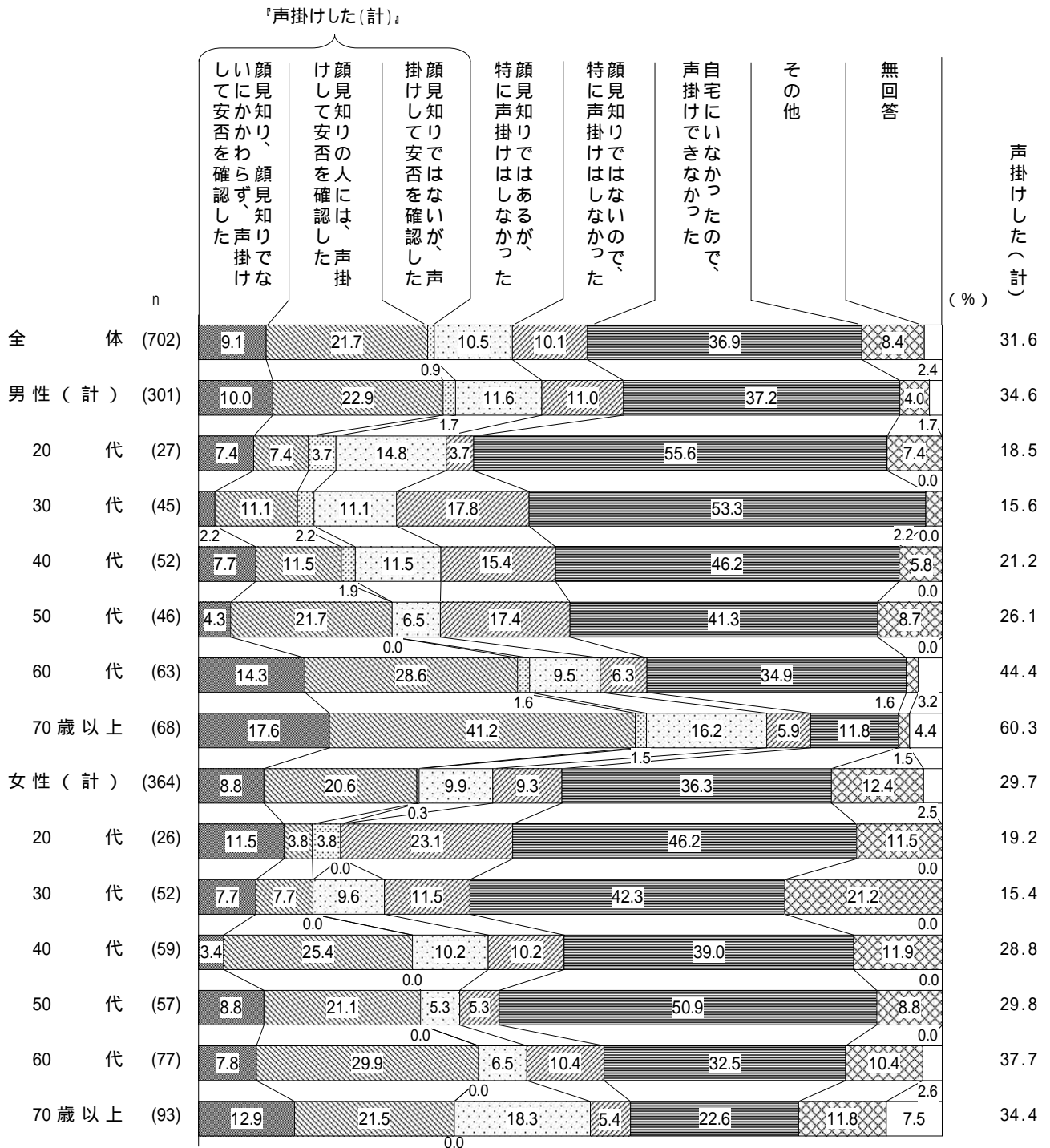
図2-10-2 災害弱者・災害時要援護者への声掛けの有無 - 地域ブロック別



性別で見ると、男性で『声掛けした(計)』(34.6%)が女性(29.7%)より4.9ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『声掛けした(計)』は男性70歳以上(60.3%)で6割と最も高くなっている。また、「自宅にいなかったため、声掛けできなかった」は男性20代(55.6%)で5割半ばと高くなっている。(図2-10-3)

図2-10-3 災害弱者・災害時要援護者への声掛けの有無 - 性別、性・年代別



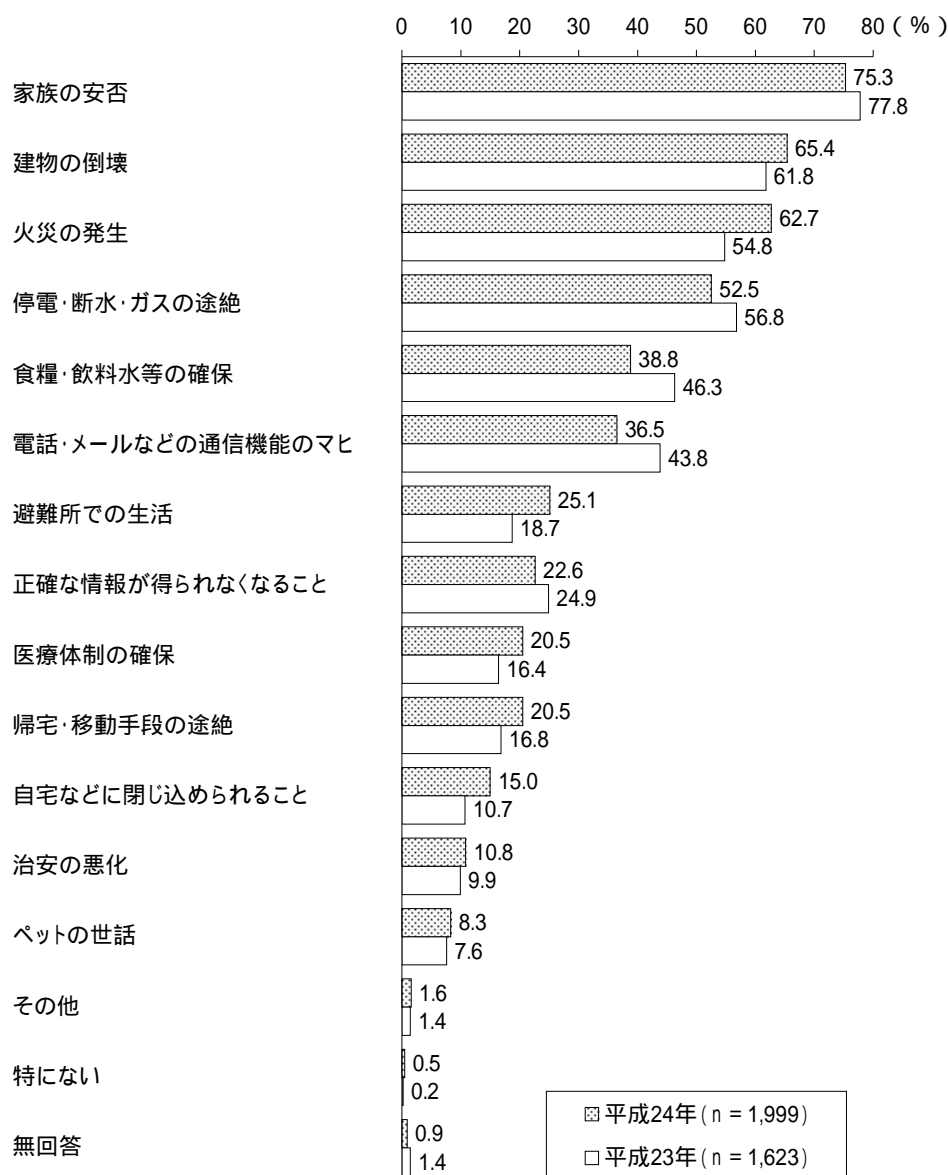
(5) 大地震が起きたとき不安に思うこと

「家族の安否」が7割半ばで最も高い

問8 身近に大地震が起きた場合に、あなたが特に不安に思うことは何ですか。

( は最大5つまで)

図2 - 11 - 1 大地震が起きたとき不安に思うこと - 過年度比較



身近に大地震が起きたとした場合に、特に不安に思うことを聞いたところ、「家族の安否」(75.3%)が7割半ばで最も高く、次いで「建物の倒壊」(65.4%)、「火災の発生」(62.7%)、「停電・断水・ガスの途絶」(52.5%)、「食糧・飲料水等の確保」(38.8%)の順となっている。

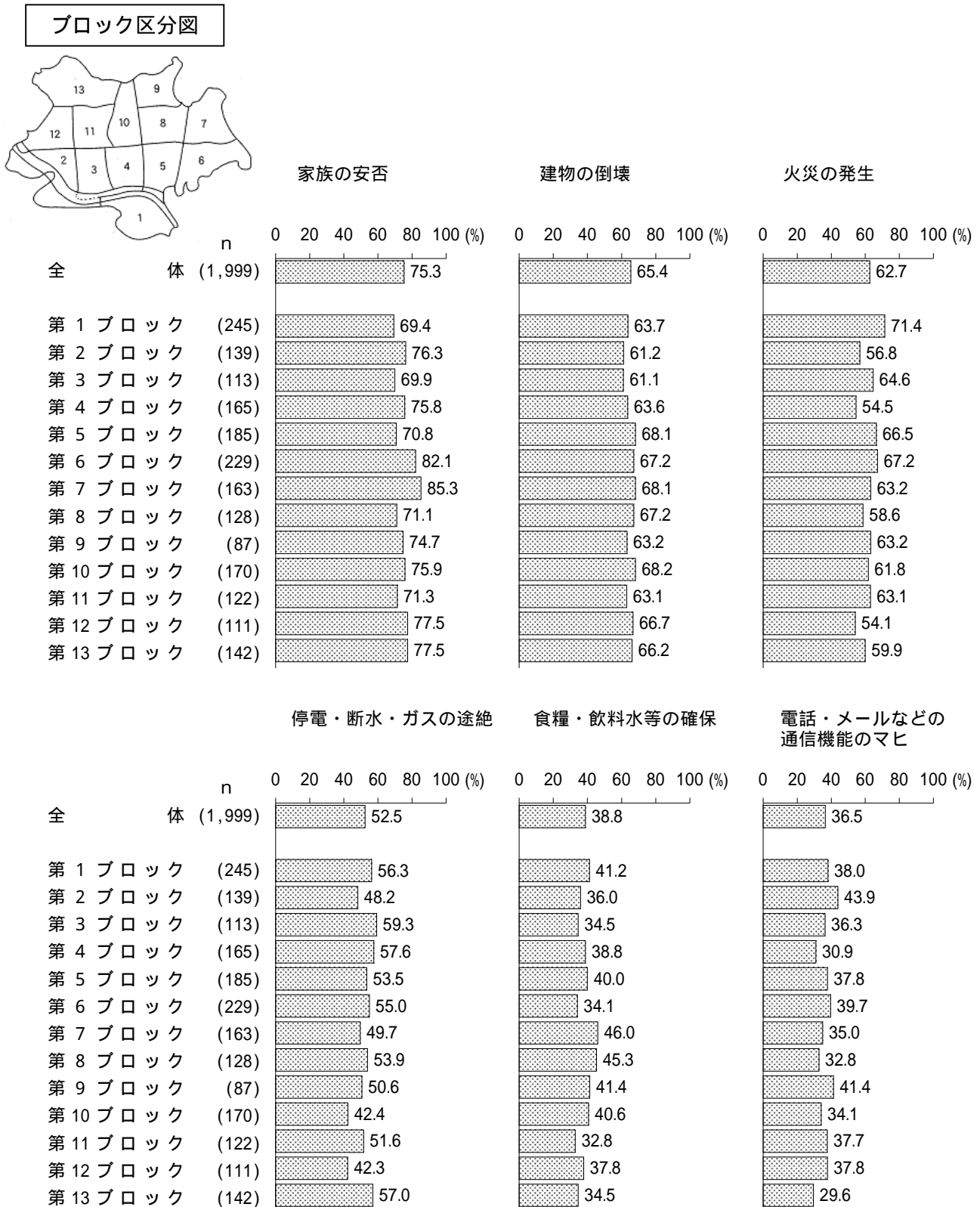
平成23年調査と比較すると、「火災の発生」は7.9ポイント、「避難所での生活」は6.4ポイント、それぞれ増加している。一方、「食糧・飲料水等の確保」は7.5ポイント、「電話・メールなどの通信機能のマヒ」は7.3ポイント、それぞれ減少している。(図2 - 11 - 1)



地域ブロック別でみると、「家族の安否」は第7ブロック（85.3%）で8割半ばと高くなっている。また、「火災の発生」は第1ブロック（71.4%）で7割を超え高くなっている。

（図2 - 11 - 2）

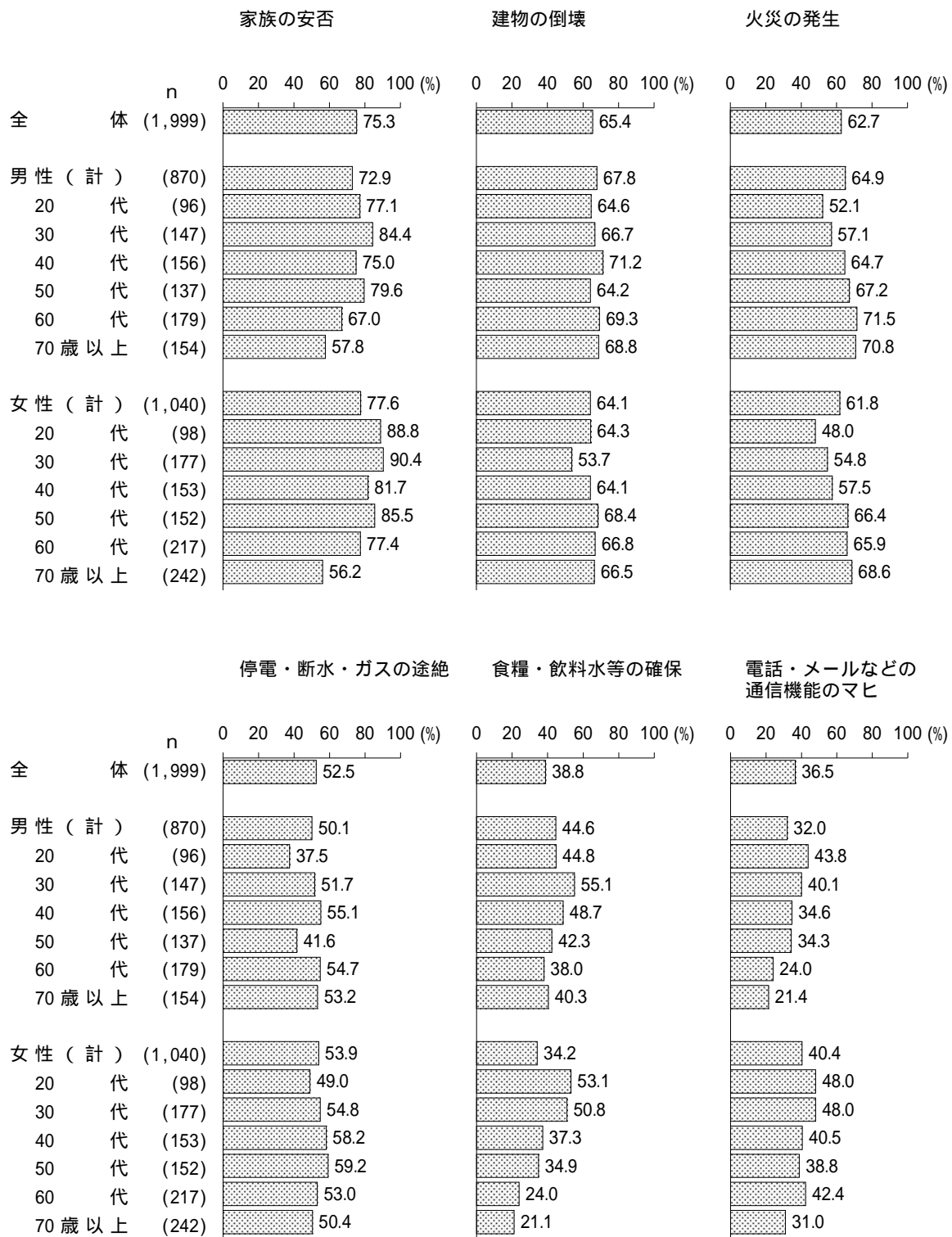
図2 - 11 - 2 大地震が起きたとき不安に思うこと - 地域ブロック別（上位6位）



性別で見ると、男性で「食糧・飲料水等の確保」(44.6%)が女性(34.2%)より10.4ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「家族の安否」は女性30代(90.4%)で9割と最も高くなっている。また、「火災の発生」は男女ともおおむね高い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、「食糧・飲料水等の確保」は男女ともおおむね低い年代ほど割合が高くなる傾向にある。(図2-11-3)

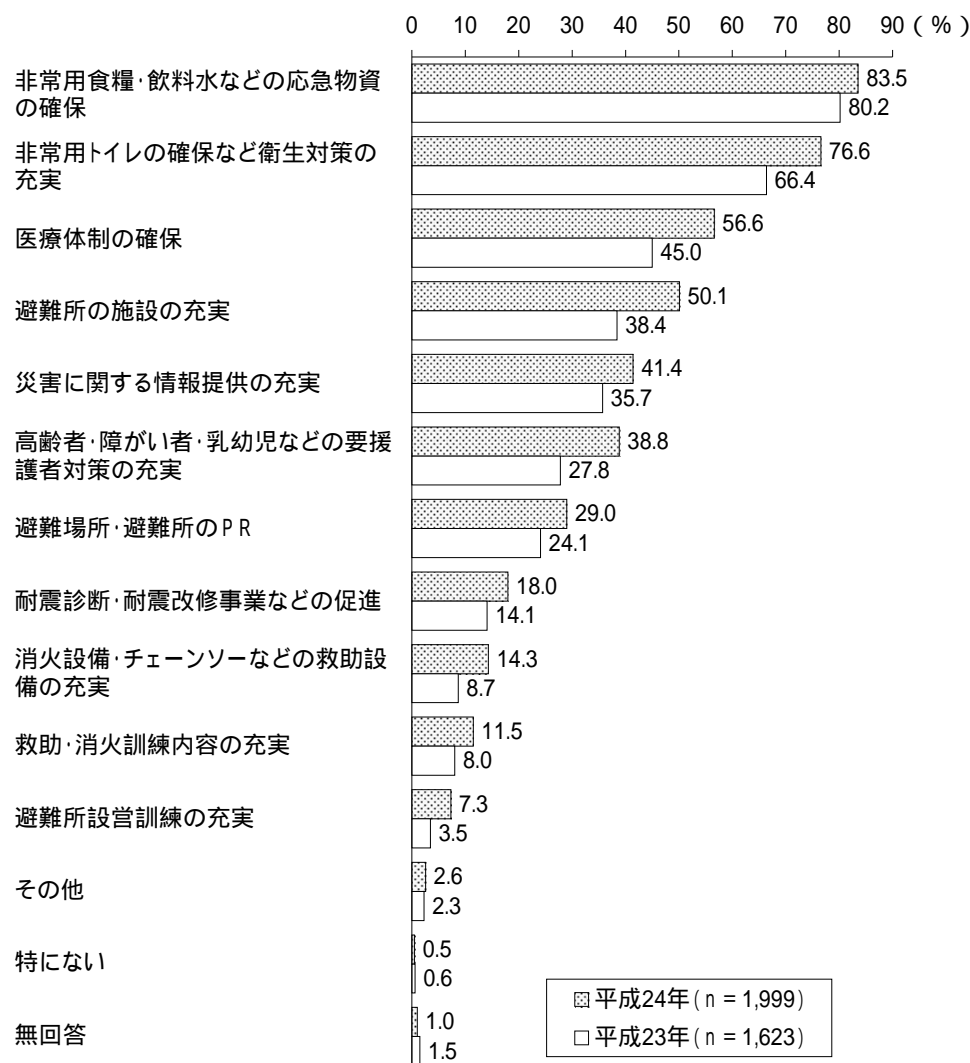
図2-11-3 大地震が起きたとき不安に思うこと - 性別、性・年代別(上位6位)



(6) 大地震の際の防災対策として区に特に力を入れてほしいこと  
 「非常用食糧・飲料水などの応急物資の確保」が8割を超え最も高い

問9 あなたが大地震の際の防災対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか。( は最大5つまで)

図2-12-1 大地震の際の防災対策として区に特に力を入れてほしいこと - 過年度比較



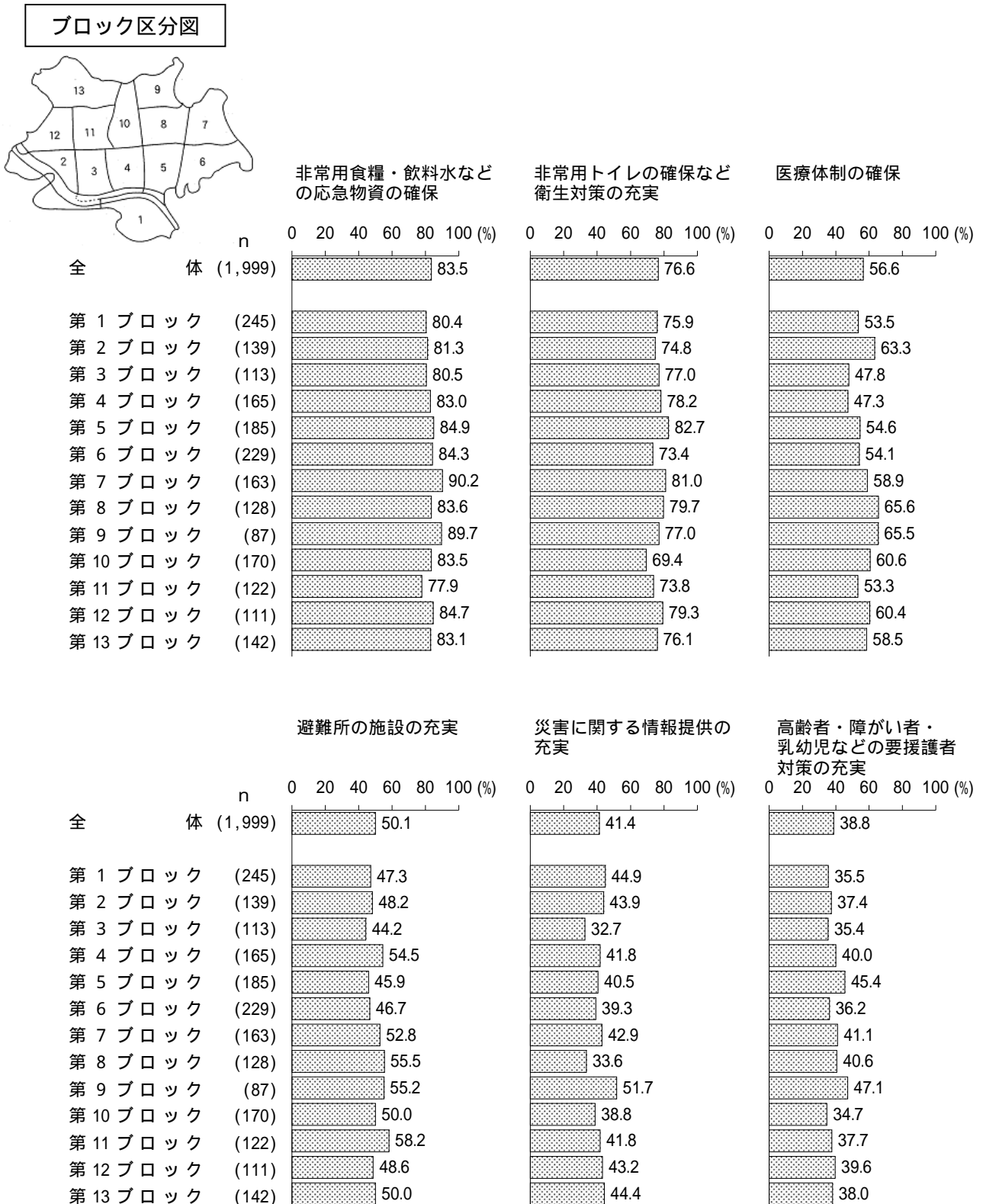
(注) 平成23年調査では選択個数制限が4つまでであったが、今回調査では5つまでに変更になったため、結果を単純に比較することはできない。

大地震の際の防災対策として区に特に力を入れてほしいと考えていることを聞いたところ、「非常用食糧・飲料水などの応急物資の確保」(83.5%)が8割を超え最も高く、次いで「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」(76.6%)、「医療体制の確保」(56.6%)、「避難所の施設の充実」(50.1%)、「災害に関する情報提供の充実」(41.4%)の順となっている。

(図2-12-1)

地域ブロック別でみると、「非常用食糧・飲料水などの応急物資の確保」は第7ブロック（90.2%）で9割と最も高くなっている。また、「災害に関する情報提供の充実」は第9ブロック（51.7%）で5割を超え高くなっている。（図2-12-2）

図2-12-2 大地震の際の防災対策として区に特に力を入れてほしいこと  
- 地域ブロック別（上位6位）



性別で見ると、女性で「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」(81.3%)が男性(71.6%)より9.7ポイント高く、「高齢者・障がい者・乳幼児などの要援護者対策の充実」(41.3%)で男性(34.8%)より6.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「非常用食糧・飲料水などの応急物資の確保」は女性20代(91.8%)で9割を超え、「避難所の施設の充実」は女性20代(63.3%)で6割を超え高くなっている。

(図2 - 12 - 3)

図2 - 12 - 3 大地震の際の防災対策として区に特に力を入れてほしいこと  
- 性別、性・年代別(上位6位)

